2019 年度事業「外国ルーツ青少年未来創造事業」

実行団体　事後評価報告書

１．基本情報

（１） 実行団体名：社会福祉法人さぽうとにじゅういち
（２） 実行団体事業名：「一人も取り残さない」ための包括的学習支援展開事業― 拠点型・アウトリーチ型・オンライン型学習支援を組み合わせて ―
（３） 資金分配団体名：公益財団法人日本国際交流センター
（４） 資金分配団体事業名：外国ルーツ青少年未来創造事業―外国にルーツをもつ子供・若者の社会的包摂のための社会基盤作り
（５） 事業の種類：イノベーション企画支援事業
（６） 実施期間：2020 年 4 月～2023 年 3 月
（７） 事業対象地域：日本全国

２．事業概要（1,000 字程度）

文科省の調査によると、日本語指導が必要な高校生の中退率は全高校生平均の 7 倍に達するなど、日本語力の不足する若者の自立の困難さは顕著であり、自立できない定住外国人の増加は、社会の階層化や外国人コミュニティの孤立につながりかねない。外国ルーツの子どもたちも等しく教育を受けられる体制の整備は解決が急がれる喫緊の社会的な課題である。それらの課題を解決すべく、当団体では、①当事者（外国ルーツの子どもたち）への働きかけ、②彼らの学習支援に関わる支援者への働きかけ、③彼らを取り巻く社会全体への働きかけ、の 3 つを事業の柱として以下のような活動を行っている。
当事者（取り残された子どもたち）に学習の機会を与えるため、拠点型の教室を 3 教室運営する。それでも対応できない地域に住む小中高生のためにアウトリーチ型の学習支援を根付かせ、学習を切望する小中高生を始めとした外国ルーツ青少年のもとに出向いていくことを考えている。同時に、受講者の学習ニーズに柔軟に対応するためオンライン型の学習支援も行い、拠点型・アウトリーチ型・オンライン型を組み合わせた学習支援、さらに子どもだけでなく親からの相談にも対応するなど、包括的学習支援を展開していく。その結果、小中高生の学力向上、家庭と学校以外の第三の場の確保はもちろんだが、そこにかかるコ

ストやマンパワーがどの程度になるかを具体的に公に示し、実効性のある学習支援の形を官民共に議論することを願っている。また、人的、物的、情報的資源の掘り起こしができるのではないかと考える。さらに、外国ルーツの子どもたちの学習支援に関わる支援者向けに、各種勉強会や研修会を提供することで、外国ルーツ青少年を取り巻く環境や抱える課題への理解を促すと共に、日本語や学校教科等の学習支援能力の向上を目指していく。また、外国ルーツ青少年との接点を今まで持つことのなかった層向けには、シンポジウムの開催やホームページや SNS 等による社会発信を通じて関心を呼び起こし、外国ルーツ青少年への良き理解者となってもらえるよう、情報提供に努めていく。

３．事後評価実施概要

１）実施体制

内部	評価担当分野	氏名	団体・役職
	各種評価項目の分析・検証、評価報告書の作成	矢崎 理恵	学習支援室チーフコーディネーター 事業責任者
	アンケート調査の作成と実施・データ分析、各種評価項目の分析、評価報告書の作成	神村 みどり	事務責任者
	報告書の全般確認とアドバイス	堀江 良彰	事務局長・理事
	報告書の全般確認とアドバイス	髙橋 敬子	理事長
外部	評価業務全般に関わる作業と、評価報告書の作成	伊藤 悦子	2022 年 9 月より当団体と関わりあり。下記経歴より、当該事業の評価委員会委員を委嘱。 公益財団法人ジョイセフ非常勤職員として、ベトナム リプロダクティブヘルスプロジェクトにおける現地調査を実施 API CHAYA（米国ワシントン州、アジア系移民への DV・性暴力・人身取引被害者支援）相談に従事

２）調査実施概要

1）調査方法

①アンケート調査

・受講者に対する学習の向上に関する自己評価と事業への要望、学習支援者に対する学習支援の向上に関する自己評価と事業への要望など

調査実施時期

・2022 年 11 月～2022 年 12 月

調査対象者

・回答の回収者は受講者 69 人のうち 39 人（回答率 56%）、学習支援者 126 人のうち 104 人（回答率 82%）である。

②文献調査

・アンケート調査と並行して、学習支援者の活動記録を参照し、受講者の学習と学習支援者の学習支援に変化や向上が見られるか検証した。

調査実施時期

・2022 年 11 月

③面接調査

・受講者および学習支援者の変化に関する聞き取り

調査実施時期

・2022 年 12 月

調査対象者

・学習支援者（コーディネーター含む）のうち、2020 年以降に事業に加わり近年の変化を観察した 2 人。長期に事業に携わり、事業の全体像を把握しているコーディネーター1 人。

分析方法

学習支援という客観的な評価が難しい事業に関して、アンケートで現状を把握し、文献調査および面接調査で得られたエピソードとともに分析し、課題を検証した。

３）事後評価の実施・分析におけるポイント（1,000 字程度）

当該事業では、①当事者である外国ルーツ青少年（以降、受講者と呼ぶ）、②学習支援者、③社会（当事者を取り巻く環境や人々）、の 3 つへの直接的な働きかけを柱として活動を行ってきた。上記 3 つの直接対象者に対しては、以下に記載の変化を重要と考え、事業を実施してきた。

①受講者

日本語の読み、書き、話し、聞く能力の向上は当然ながら、それ以外の部分で、学習に向かう姿勢や態度、対人関係を構築する能力等についての成長（変化）も期待してきた。また、当団体の学習支援室が、家でも学校でもない第三の学習の場、受講者にとっての居場所的な存在になることを重視してきた。事後評価としては、それらが達成されたかを判断する手段として、受講者へのアンケート調査を実施することで、自身の成長について自己評価をしてもらうと共に、客観的な立場で受講者に応対しているコーディネーター2 名と学習支援者 1 名への聞き取りを実施することで、自己・他己の双方による評価から、期待する上記変化が起こっているかを捉えてきた。

②学習支援者

学習支援者については学習支援の能力の向上を期待すると共に、実際に受講者と接する中で、難民的背景を持つ外国ルーツ青少年が抱える課題を知ること、彼らの良き理解者として活動に関わってくれるようになることを重要な変化として捉えてきた。そういった変化が実際にあったかを測るべく、学習支援者へのアンケート調査を実施し、自己評価によって、活動前と活動後とでどのような変化が生じているか回答してもらった。加えて、2020 年度より継続的に拠点型、オンライン型の学習支援に携わっている支援者 1 名への聞き取り調査を行うことで、自身に起こった変化等を具体的に聞きながら深掘りしていった。加えて、普段から学習支援者と接しているコーディネーター 2 名にも聞き取り調査を行い、学習支援者の変化を客観的に捉えた。

③当事者を取り巻く環境や人々

ホームページや SNS を通じて、継続的に当団体の活動や当事者の声を発信し続けることで、外国ルーツ青少年を取り巻く社会的環境や、彼らが抱える課題について知ってもらうことを重視し、事業を展開してきた。その一手段として、住友商事サポートチームとの協働で Facebook を始めたが、地道に当団体の活動や当事者の声を発信し続けることで、0 人だったフォロワーが 424 人（2023 年 1 月現在の数字）に増えている。当初は、当団体の関係者や関係団体のみがフォローしている状況だったが、現在では、全フォロワーのうち、6 割は当団体と facebook を機に新たに繋がることができた方々であり、今までアプローチできていなかった層へリーチできていることが分かる。また、過去 1 年間の傾向より、投稿記事全 42 件に対して 500 以上のリーチは 4 割を占めており、主には当団体の奨学金受給者である外国ルーツ青少年や学習支援者の声を掲載した時の読み手のリアクションは大きいことを確認できている。シェアといったアクションも毎回取られていることからも、投稿記事の反響は大きく、当事者を取り巻く人々への啓発的な活動が少しずつではあるが、できつつあると判断している。

４．事業の実績

１）インプット

<table>
<tr><td rowspan="3">資金</td><td colspan="2">助成金（円）</td><td colspan="2">自己資金（円）</td></tr>
<tr><td>契約当初の計画金額：
25,022,000 円</td><td>実際に投入した金額：
25,202,105 円</td><td>契約当初の計画金額：
9,581,720 円</td><td>実際に投入した金額・種類：
5,048,568 円</td></tr>
<tr><td colspan="4">資金調達に工夫した点：
コロナ禍で、会費や寄付は減少傾向にあったが、Facebook や Instagram を始めとした SNS のスタートにより、団体の活動内容について知った方が新たな会員・寄付者となってくださる例が複数件あった。錦糸町教室の実施に際しては、一般財団法人ファーストリテイリング財団からの助成金をもとに運営しているが、継続的に助成してもらえるよう教室活動において一定以上の成果を収めるよう努めた。</td></tr>
<tr><td>人材</td><td colspan="4">内部：６名（全体コーディネート１名、目黒教室アシスタント１名、錦糸町・行徳教室コーディネート各１名、アウトリーチ担当１名、評価兼事務・管理担当１名）
外部：２名（評価業務１名、有識者１名）</td></tr>
<tr><td>資機材
（主なもの）</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

２）活動とアウトプットの実績

（１）主な活動（1,000 字程度）

当該事業で実施してきた、①受講者向け、②学習支援者向け、③広く社会に向けた活動について、詳細を以下に記す。

①受講者向け

当団体の支援対象である、難民的背景を持つ外国ルーツ青少年向けに、拠点型・アウトリーチ型・オンライン型の 3 つの学習形態を用いて、日本語や学校教科の学習支援を実施した。事前評価を実施した際、当初予定していた「拠点型」「アウトリーチ型」の学習支援に「オンライン型」学習支援も組み合わせる

ことにより、外国ルーツ青少年の学習機会を増やし、より多くの支援対象者にアプローチできるとの考察に至り、継続的に 3 種の学習支援の携帯を実施した。また、学習者に合った支援の形を模索する中では、一つの形態にとらわれず、複数の支援形態を組み合わせることで、途切れのない学習継続を可能としている。また、主として外国ルーツ青少年の若者、親世代を対象に生活的知識を養う勉強会の提供を新たに実施した。専門家を招き、お金・防災・健康をテーマとして生活情報の獲得、整理を目指した。

②学習支援者向け

各種勉強会を行い、学習支援のハウツーを学び合う場、当事者の直接の声を聴く場、近年大きな変化を迎えたミャンマーやアフガニスタンについて専門家から直接話を聞き、学ぶ場を設けてきた。また、学習支援を行う際にも、適切に受講者の日本語能力をアセスメントしていくことは非常に重要であるが、その一つの手段である DLA（外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント）のアセッサーを育成するための研修会も実施した。アセッサーの育成には時間を要し、またコロナの影響もあり、アセスメントの機会は限られたが、座学や実践トレーニングの場を設けることで、DLA の基礎を習得したボランティアが 15 名にものぼり、うち 5 名が実際に 2 地域の小中学生のアセスメントを実施した。

③社会一般向け

先に挙げた社会課題の解決のためには、当事者への働きかけとともに、彼らを取り巻く社会側（多くの日本人側）への働きかけが必要であると考える。具体的には、外国ルーツ青少年が抱える課題や彼らを取り巻く環境を理解してもらうことで、理解し共感する心を養っていく必要がある。それを実現すべく、ホームページや SNS を通じて発信を続けており、特に当事者の声を掲載することを意識的に行ってきた。また、当団体と関わりのない方々向けには、シンポジウムの開催を契機として、当団体について、また外国ルーツ青少年について知ってもらうことを企画している。

３）アウトプット実績

①　実績値

アウトプット	指標	初期値	目標値	達成時期	実績値
１．（拠点型支援） 目黒教室で学習支援を実施する	実施回数、受講者数、継続率	①2020 年度：年 50 回/60 人/- ②2021 年度：年 50 回/9 人/-	①年 44 回/9 人（新規 2 人、継続 7 人）/維持 ②年 50 回/10 人	①2020 年度末 ②2021 年度末 ③2022 年度末（事業終了時）	①44 回、9 人（新規 2 人、継続 7 人）、継続率 100% ②50 回、9 人（新規 1

		③2022 年度：年 50 回/10 人/-	（新規 2 人、継続 8 人）/維持 ③年 50 回/10 人（新規 2 人、継続 8 人）/維持		人、継続 8 人）、継続率 100% ③40 回、24 人（新規 14 人、継続 10 人）、継続率 100% 【3 年間の平均値】 年 44 回、14 人、継続率 100%
１．（拠点型支援） 錦糸町教室で学習支援を実施する	実施回数、受講者数、継続率	①2020 年度：年 50 回/10 人/- ②2021 年度：年 50 回/5 人/- ③2022 年度：年 50 回/10 人/-	①年 35 回/5 人（新規 2 人、継続 3 人）/維持 ②年 50 回/10 人（新規 5 人、継続 5 人）/維持 ③年 50 回/10 人（新規 2 人、継続 8 人）/維持	①2020 年度末 ②2021 年度末 ③2022 年度末（事業終了時）	①35 回、5 人（新規 2 人、継続 3 人）、継続率 100% ②52 回、9 人（新規 2 人、継続 7 人）、継続率 100% ③36 回、10 人（新規 3 人、継続 7 人）、継続率 100% 【3 年間の平均値】 年 41 回、8 人、継続率 100%
１．（拠点型支援）	実施回数、受講者数、継	①2020 年度：年 0	①年 7 回/30 人	①2020 年度末	①7 回（2020 年 12 月

冬期休暇期間集中学習支援を実施する	続率	回/0 人/0% ②2021 年度：年 7 回/30 人/0% ① ③2022 年度：年 7 回/30 人/0%	/100% ②年 7 回/30 人（新規 5 人、継続 25 人）/維持 ③年 7 回/30 人（新規 5 人、継続 25 人）/維持	（事業開始 1 年後） ②2021 年度末 ③2022 年度末（事業終了時）	27 日～21 年 1 月 6 日）、30 人（新規 30 人）、継続率 100% ②6 回（2021 年 12 月 29 日～22 年 1 月 7 日）、3 人（新規 0 人、継続 3 人）、継続率 100% ③8 回（2022 年 12 月 26 日～23 年 1 月 6 日）、29 人（新規 29 人、継続 0 人）、継続率 100% 【3 年間の平均値】 7 回、20 人、継続率 100%
２．（拠点型支援） 行徳教室で学習支援を実施する	実施回数、受講者数、継続率	①2020 年度：年 0 回/0 人/0% ②2021 年度：年 50 回/9 人/0% ③2022 年度：年 50 回/10 人/0%	①年 31 回/9 人/100% ②年 50 回/10 人（新規 1 人、継続 9 人）/維持 ③年 50 回/10 人（新規 1 人、継続	①2020 年度末（事業開始 1 年後） ②2021 年度末 ③2022 年度末（事業終了時）	①31 回、9 人（新規 9 人）、継続率 100% ②39 回、10 人（新規 1 人、継続 9 人）、継続率 100% ③39 回、13 人（新規 3 人、継続 10 人）、延べ

			9 人）/維持		213 人（5.5 人/回）、継続率 100% 【3 年間の平均値】 年 36 回、10 人、継続率 100%
３．（アウトリーチ型支援） アウトリーチ型学習支援を実施する	新規アウトリーチ先、実施回数、受講者数、 継続率	①2020 年度：0 箇所/週 0 回/0 人/0% ②2021 年度：1 箇所/週 1 回/2 人/0% ③2022 年度：5 箇所/週 1 回/10 人/0%	①1 箇所/各所・週 1 回/2 人/100% ②5 箇所/週 1 回/10 人/100% ③10 箇所/週 1 回/10 人/100%	①2020 年度末（事業開始 1 年後） ②2021 年度末 ③2022 年度末（事業終了時）	①1 箇所（新規 1 箇所） ※1 箇所目：学校教科の学習支援 13 回・週 1 回（対面型）、受講者 2 人、継続率 100% ②2 箇所（新規 2 箇所） ※1 箇所目：日本語学習支援 46 回（対面型＋オンライン型）、受講者 1 人、継続率 100% ※2 箇所目：日本語学習支援 50 回（対面型のみ）、受講者 5 人、継続率 100% ③4 箇所（新規 3 箇所、継続 1 箇所） ※1 箇所目：日本語学習

					支援34回･週2回（対面型＋オンライン型）、受講者1人、継続率100% ※2 箇所目：日本語学習支援 6 回･週 2 回（対面型）、受講者 1 人、継続率100% ※3 箇所目：学校教科の学習支援 6 回･週 2 回（対面型）、受講者 1 人、継続率100% ※4 箇所目：日本語学習支援7回･週 2 回（対面型）、受講者 1 人、継続率100% 【3年間の平均値】 2 箇所、4 人、継続率100%
４．（オンライン型支援） オンライン型学習支援を実施する	実施回数、受講者数、継続率	①2020 年度：年 0 回/0 人/0% ② 2021 年度：年 300 回/60 人/0%	①年 341 回/60 人/100% ②年 300 回/60 人（新規 10 人、	①2020 年度末（事業開始 1 年後） ②2021 年度末	①341 回、60 人（新規 60 人）、継続率100% ②360 回、84 人（新規 20 人、継続 64 人）、継

		③2022 年度：年300回/60人/0%	継続 50 人）/維持 ③年 300 回/60 人（新規 10 人、継続 50 人）/維持	③2022年度末（事業終了時）	続率100% ③274 回、54 人（新規 12 人、継続 42 人）、継続率100% 【3年間の平均値】 年325回、66人、継続率100%
５．（拠点型・アウトリーチ型・オンライン型支援）受講者向けに勉強会を実施する（2022 年度から実施）	①生活勉強会：実施回数、受講者数 ②ワークショップ：実施回数、受講者数	年0回／0人	①年 10 回/各 5 人 ②年 3 回/各 10 日人	2022年度末（事業終了時）	①年9回（若者向け5回＋大人向け 4 回）※2023年1月時点、 平均受講者数は若者向けの会で4.4人/回（各回4人、5 人、4 人、6 人、3 人）、大人向けの会で 12 人/回（各回 17 人、15 人、8人、8人） ②年 2 回、平均受講者数は 15.5 人/回（各回 17 人、14人） ※上記は 2022 年度の実績。2020 年度、2021 年度については計画していなか

					ったため、実施なし。
６．受講者情報管理システムを構築し、活用する	登録受講者数	0 件	50 件以上	2022 年度末 （事業終了時）	0 件 ※システム構築の完了は 1 月下旬であるため、完了出来次第、受講者情報を登録する
７．（拠点型・アウトリーチ型・オンライン型支援）大学生学習支援者を増やす	参加者数	①2020 年度：10 人 ②2021 年度：25 人 ③2022 年度：25 人	①25 人 ②25 人（新規 15 人、継続 10 人） ③25 人（新規 15 人、継続 10 人）	①2020 年度末 （事業開始 1 年後） ②2021 年度末 ③2022 年度末 （事業終了時）	①25 人 ②43 人（新規 33 人、継続 10 人） ③31 人（新規 18 人、継続 13 人） 【3 年間の平均値】 33 人
７．（拠点型・アウトリーチ型・オンライン型支援）学習支援者勉強会を実施 する	勉強会開催数、参加者数	年 2 回/各 15 人	年 2 回/各 20 人	各年度末	①2020 年度：3 回、平均 20.3 人（各回 27 人、25 人、9 人） ②2021 年度：3 回、平均 35.6 人（各回 30 人、39 人、38 人） ③2022 年度：開催出来ていないが、以下予定で 3 回実施予定。

					1.「在留資格について」（3/8（水）19 時半～21 時） 2.「中高生への学習支援①」（3/5（日）10 時～12 時） 3.「中高生への学習支援②」（3/12（日）10 時～12 時）
７．（拠点型・アウトリーチ型・オンライン型支援）学習支援「開始者」向け研修１（団体概要の理解）を実施する	研修会開催数、参加者数	年０回／０人	月 1～2 回以上／年間 40 人以上	各年度末	①2020 年度：27 回（グループ 11 回、個別 16 回）、合計 47 人 ②2021 年度：40 回（グループ 20 回、個別 20 回）、合計 90 人 ③2022 年度：29 回（グループ 17 回、個別 12 回）、合計 64 人 【3 年間の平均値】 年 32 回（グループ 16 回、個別 16 回）、67 人
７．（拠点型・アウトリー	研修会開催数、参加者	年０回／０人	年４回／各回 10	各年度末	①2020 年度：実施なし

チ型・オンライン型支援） 学習支援「開始者」向け研修２（スキルアップ）を実施する	数		人以上		②2021 年度：3 回、のべ 74 人（各回 30 人、29 人、15 人） ③2022 年度：開催できていないが、以下予定で 3 回実施予定。支援スキルの獲得を目指した研修会とする。 1.「実践の報告①」（2/22（水）19 時半～21 時） 2.「実践の報告②」（3/1（水）19 時半～21 時） 3.「当事者の声をきく①」（2/19（日）10 時～12 時） 4.「当事者の声をきく②」（2/26（日）10 時～12 時）
７．（拠点型・アウトリーチ型・オンライン型支援） 「アセッサー」向け勉強会・	勉強会・研修会開催数、参加者数	年 0 回／0 人	年 5 回／各回 15 人以上	各年度末	①2020 年度：4 回、のべ 75 人（各回 27 人、25 人、14 人、9 人）

研修会（DLA）を実施する					②2021 年度：実施なし ③2022 年度：開催できていないが、2 月から 3 月末にかけて 3 回実施予定
８．拠点型・アウトリーチ型・オンライン型統合学習支援の成果を発表する	①報告書の作成、配布 ②ホームページ掲載する報告書のダウンロード数 ③シンポジウムの実施及び参加者数	①0 冊 ②0 件 ③0 回/0 人	①300 冊以上配布 ②100 件以上 ③1 回開催／参加者 50 人以上	2022 年度末 （事業終了時）	サイトの準備完了。 2023 年 2 月下旬頃にてシンポジウム実施予定にて、現在関係者との協議を進めている。
９．ホームページの特設サイトを活用し、当該事業や外国ルーツ青少年について等の情報発信を行う	コンテンツの配信回数	0 件	1 件/月	サイト公開から 2022 年度末の事業終了時	各月以下頻度で更新済だが、3 月～12 月までの平均配信回数は約 0.6 件/月。 3 月：3 件 5 月：1 件 7 月：1 件 9 月：1 件

②アウトプットの実績概要（1,000 字以内）

以下 3 点をアウトプットの実績として記載する。

・受講者への学習支援

拠点型教室における学習支援は計画通り行われた。オンライン型については、安定した受講者数と継続率を維持できており、想定以上の成果をもたらしている。アウトリーチ型に関しては当初予定よりも実施個所は少なかったものの、年度を重ねるごとに他団体からの認知度もあがっており、アウトリーチ型支援の対応を依頼する声も増えつつある。3 年目には合計 4 箇所で実施されるに至っており、うち 2 箇所は DV 等の事情から避難を余儀なくされた方への支援であ

り、一人も取り残さない包括的支援の一成果であると考える。当該事業においては、従前からの拠点型に加えて、アウトリーチ型・オンライン型を組み合わせることで、拠点型だけでは対応できなかった人へのリーチが出来るようになった。対面型参加が徐々に増えてきた 2022 年度の例では、3 つの学習形態による受講者 100 名のうち、アウトリーチ型・オンライン型のみで参加した受講者（＝拠点型のみの形態であれば、学習参加できなかった受講者）は 51 名にも上り、全体の 51%を占めていることからも、受講者のニーズや環境に合わせた柔軟な対応ができており、学習内容の変化や受講者自身の環境変化があっても学びの継続が可能となり、一定の成果をおさめていると考える。また、今年度より新たに実施した生活勉強会・ワークショップにおいては、受講者の 8 割以上がその有益性を認めるといった結果がアンケートより得られている。日本に定住し生活基盤を築いていく外国ルーツの若者や、親世代向けに「生活面に特化した学習の場」が提供されることにより、自立度があがり、子ども達の置かれる家庭環境の改善に繋がるだけでなく、自身も「学びの場」に参加することで、団体への信頼度、子ども達の学習支援への参加に肯定的な姿勢で臨めるようになっていることが観察される。

・支援者への勉強会、研修会の実施

支援者に実施したアンケート結果をもとに、要望にそった形での実施を企画できている。継続的に学習支援に関わってもらうためにも、勉強会や研修会といった場はスキルの向上だけではなくモチベーションをも高め、また、支援者同士の関係構築にも繋がっている。

・受講者情報管理システムの開発

多数の学習支援者が関わる当該事業においては、各回各所の学習支援が効果的に行われるために、受講者個々の個人情報を守りつつ、効率よく適切に学習支援に必要な情報を共有することの必要性が生じてきた。参加する子ども達に関する情報を適切に管理、共有することにより、多数の子ども、多数の学習支援者が関わる学習支援活動において、より大きな学習成果をあげることを目的として、今年度よりシステムの開発に踏み切った。当該事業の社会貢献的意義や価値を理解し、協力してくれるシステム開発業者を選定することができ、1 月下旬にシステム開発は完了予定である。本システムは、事業終了後も当団体にて活用していくとともに、同様の課題を抱える団体は他にもあると考えるため、本システムの広報、普及活動を行っていきたいと考えている。

４）外部との連携の実績（1000 字以内）

①連携、協力の実施状況

個々の受講者を巡る、ステークホルダーとの連携は、個別的であり、一様ではないが、受入れ段階で個々の受講者のおかれた環境、状況について、主としてコーディネーターが、本人（もしくは保護者）から聞き取りを行い、その後、学習支援室の活動を通じて本人（もしくは保護者）とやりとりを重ね、関係構築を進め、その中で、受講者の学習支援に必要であろうと判断した個人（団体）と連携をはかるようにした。

・当団体のような、学校外の学習支援団体にとって、最も重要なのは学校との関係作りである。半数以上の受講者については、その濃淡はあるものの、何かしらの形で学校との連携をはかった。
・また、DV 避難、不登校、母国からの緊急退避等、受講者の状況が複雑なケースは、区市の福祉課、教育委員会など公的機関と連携をはかることを優先させた。必要に応じて、（社福）日本国際社会事業団など他の難民支援団体、（NPO）国際活動市民中心など専門家集団とも連携をはかった。
・その一方で、（NPO）Wco.FP の会等、大人世代への働きかけに力を貸してくださる団体や、（一財）JELA など奨学金支給団体とは、包括的支援が行えるよう、体制を構築した。
・大学との連携も積極的にはかり、2022 年度だけでも、明治学院大学（内なる国際化プロジェクト）、青山学院大学など 6 つの大学の実習生を受け入れ、柳井正財団海外奨学生等のボランティア参加も積極的に進めた。また、住友商事サポートチームとは、学習支援、組織支援、キャリア支援を通じて連携してきた。企業との連携の好事例と言える。これらの連携は、より多くの理解者の獲得につながるものである。
②連携・協力に向けた戦略、工夫
・連携、協力に向けての手だては、受講者本人やその家族の希望を尊重しつつ、時間をかけて信頼関係を構築すること、それを前提として関連するステークホルダーと丁寧にやりとりを重ねることに尽きる。
・たとえば、学校とは、コーディネーターが受講者の「三者面談」に同席することを関係づくりの糸口とすることが多かった。クラス担任の先生にコーディネーターの顔と名前を覚えていただき、「受講者も保護者も信頼をおく団体である」ことを認識していただければ、その後の情報共有はスムーズに進む。やりとりを重ねる中で、学校にとっては、大切な話をしっかり「保護者まで」伝えるために間に入る団体があることが効率的であると思っていただき、また当団体としては、受講者やその保護者だけでは伝えきれない移動の事情、文化や宗教的な背景、家庭の状況などを個人情報に配慮しつつ学校側に伝えることで、結果的に受講者に益することの多い連携がはかられた。
・公的機関と連携をはかるにあたっても、個人の情報を守りつつ、少数言語の通訳同行、関連情報の提供等、公的機関にとっても必要な動きのとれる団体として信頼を得られたことで、学習支援の会場確保に動いていただくなど、受講者のおかれた状況の改善につながった。
・他の団体や企業、大学等と連携する中では、活動の開始時に双方の役割分担、ゴールなどを明確にして、合意形成しておくこと、活動開始後も常にオンラインミーティングや電話等で意思疎通をはかるよう心がけたことが、より良い連携につながった。
・事業実施により、これらの連携には、つなげる「人」の存在が必須であることを再認識した。事業が拡大し、受講者の居住地も広がりを見せたが、本事業実施により 1 拠点に 1 名以上のコーディネーターを安定して配置することが可能となり、連携、協力が順調に進んだ。また、事業実施前にはコーディネーターが一

人で問題を抱え込む状況もあったが、コーディネーターが複数いることで、状況を共有し、相談し合える体制が整い、連携が強化された。

５．アウトカムの分析

（１）アウトカムの達成度

①短期アウトカムの計画と実績

短期アウトカム	指標	初期値・ 初期状態	目標値・ 目標状態	達成時期	アウトカム発現状況（実績）
１～４．（拠点型支援・アウトリーチ型・オンライン型支援共通） 受講者の日本語を読み、書き、話し、聞く能力が向上する	DLA（外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント）	個人により異なるため、支援開始段階での調査に基づいて設定	支援開始１年間で１ ステージ以上アップを達成する受講生が 80％以上を占める	2022 年度末（事業終了時）	DLA によるアセスメントは最終年度のみの実施であり、初期値を得るにとどまった。受講者の日本語能力の向上有無を適切に判定するため、各教室のコーディネーターへのヒアリングや毎回の授業報告からの読み取り、学習支援者へのヒアリングや授業記録の確認を行った。結果として、学習継続者、特に途中来日者については、日本語能力の著しい向上がみられたが、これは、様々な要素が考えられ、一概に学習支援の成果として切り出すことは難しいと判断する。
１～４．（拠点型支援・アウトリーチ型・オンライン型支援共	①通知表評定 ②受講者自己評価 ③高校進学率	個人により異なるため、支援開始段階での調査に	①評定から１がなくなる・評定が上がる ②自己評価が維	2020 年度末、2021 年度末	＜2020 年度＞ ①コロナ禍にてオンライン型学習が中心となったため、受講者 54 人の学校成績の確認が困難

通） 受講者（小中学生）の学校成績が向上し、学業が継続され、進級、進学できる		基づいて設定	持される、もしくは上がる ③第一志望校進学率 100% 維持	各年度末、3年間目標値維持	であり、実施できていない。 ②口頭による確認が中心だが、自己評価は維持されている。 ③進学希望者 4 人は全員合格し、第一志望校への進学が決まった。 ＜2021 年度＞ ①前年度に引き続き、オンライン型学習が中心であったため、受講者 63 人の通知表の確認が困難であり、実施できていない。 ②受講者へのアンケート調査を行い、回答した 30 人中 28 人が「学校成績の向上」「自信獲得」「勉強が楽しくなった」「進学が決まった」と回答し、自己評価は維持、向上している。 ③進学希望者 4 人は全員合格し、第一志望校への進学が決まった。 ＜2022 年度＞ ①オンライン化により、受講者 61 人の通知表を確認することはできなかったが、確認した小中学生 20 人について、全員、通知表に「評定 1 」は見られなかった。 ②受講者へアンケート調査を行い、回答した 28 人中 23 人が「学校成績の向上」「自信

					獲得」「勉強が分かるようになった」等と回答し、自己評価は維持、向上している。 ③進学対象者である12人は、これから受験を迎えるため、まだ判定できない
１～４．（拠点型支援・アウトリーチ型・オンライン型支援共通） 受講者（高校生）の学校成績が向上し、学業が継続され、進級、進学できる	①通知表評定 ②受講者自己評価 ③非中退率	個人により異なるため、支援開始段階での調査に基づいて設定	①評定から１がなくなる・評定が上がる ②自己評価が維持される、もしくは上がる ③非中退率100% 維持	2020年度末、2021年度末 各年度末、3年間目標値維持	＜2020年度＞ ①コロナ禍にてオンライン型学習が中心となったため、受講者17人全員の学校成績の確認は困難であったが、高校３年生６人については、通知表評定から１がなくなり、評定の向上が確認された（高校1･2年生11人は確認できなかった）。 ②口頭による確認が中心だが、自己評価は維持されている。 ③非中退率については17人全員の100%維持 ＜2021年度＞ ①前年度に引き続き、オンライン型学習が中心であったため、受講者11人の通知表の確認が困難であり、実施できていない。 ②受講者へアンケート調査を行い、回答した９人中８人が「勉強が分かるようになった」「進学が決まった」等と回答し、自己評価は維持、向上している。

					③非中退率については 11 人全員の 100%維持 ＜2022 年度＞ ①オンライン化により、受講者全員の通知表を確認することはできなかったが、確認した高校生 16 人について、1 人を除いては全員、通知表に「評定 1 」は見られなかった。②受講者へアンケート調査を行い、回答した 11 人中 9 人が「学校成績の向上」「自信獲得」「勉強が分かるようになった」等と回答し、自己評価は維持、向上している。 ③非中退率については 16 人全員の 100%維持
３．（アウトリーチ型支援対象エリア拡大） 学校や学習支援室以外に学習の場がつくられる	学習支援個所	0 件	10 件	2022 年度末（事業終了時）	6 件（高洲、清瀬、新座、所沢、板橋、渋谷） ※2023 年 1 月時点
５．受講者の生活知識やスキルが向上する（2022 年度のみ実施）	受講者自己評価	0 回	「知識やスキルが向上した」の回答が 80%以上になる	2022 年度末（事業終了時）	生活勉強会・若者向け 平均 100%/回（全回 100%） 生活勉強会・大人向け 平均 94.5%/回（各回 92%、100%、86%、100%）

					ワークショップ　平均　100％/回（全回100%） ※上記は 2022 年度の実績。2020 年度、2021 年度については計画していなかったため、実施なし。
６．受講者の情報を一元管理し、適切な日本語・学習支援を実現するための受講者情報管理システムがつくられる	システム数	0 件	1 件	2022 年度末（事業終了時）	1 件のシステム構築に向けて、現在作業を推進中
７．（学習支援者向け支援） 学習支援者の日本語・学習支援能力が向上する	①DLA（外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント）習得者数 ②事業コーディネーター及び外部専門家による評価 ③支援者の自己評価	①0 名 ②支援開始段階での観察記録に基づいて設定 ③調査段階でのアンケート調査に基づいて設定	①20 人 ②対応能力の５段階評価において 1 段階以上向上 ③「支援能力が向上した」の回答が80%以上になる	①2022 年度末 ②、③ 2020 年度末、2021 年度末、2022 年度末、3 年間目標値維持	①15 人 ＜2020 年度＞ ②事業コーディネーターによる評価によれば、どの支援者も経験を重ね、支援能力を一段階以上向上させていることは明らかである。 ③学習支援者へのアンケート調査では、回答した６人中５人（83%）が「支援能力が向上した」と回答し、目標値を達成した。 ＜2021 年度＞ ②事業コーディネーターによる評価によれば、どの支援者も経験を重ね、支援能力を一段階以上向上させていることは明らかである。

					③年度末のアンケート調査は実施していないが、学習支援者の授業記録の確認、コーディネーターによる口頭でのヒアリングでは、半数の人が支援能力の向上を認めているが、目標値には届かなかったと思われる。 ＜2022 年度＞ ②事業コーディネーターによる評価によれば、どの支援者も経験を重ね、支援能力を一段階以上向上させていることは明らかだが、支援の姿勢は数値的なもの以上に重要な側面であること、そのような数値化しにくい部分は単にスキルトレーニングではなく、支援の経験を他者とともに振り返ることにより、変化がもたらされる。 ③アンケート調査より、回答した 19 人中 11 人（58%）が能力の向上を認識したにすぎず、目標値は達成できなかった。
７．（学習支援者向け支援） 学習支援者のオンラインでの日本語・学習支援能力が向上する	①オンライン学習支援対応可能者数 ②事業コーディネーター及び外部専門家による評価 ③支援者の自己評価	①0 名 ②支援開始段階での観察記録に基づいて設定 ③支援開始段階でのアンケート調査に基づいて設	①50 人（維持） ②対応能力の５段階評価において 1 段階以上向上 ③「支援能力が向上した」の回答が 80%以上になる	2020 年度末、2021 年度末、2022 年度末 各年度末、3 年間目標値維持	＜2020 年度＞ ①76 人 ②事業コーディネーターによる評価によれば、どの支援者も経験を重ね、支援能力を一段階以上向上させていることは明らかである。 ③学習支援者へのアンケート調査では、回答した 23 人中 14 人（61%）が「支援能力

		定			が向上した」と回答するにとどまり、目標値には届かなかった。 ＜2021 年度＞ ①75 人 ②事業コーディネーターによる評価によれば、どの支援者も経験を重ね、支援能力を一段階以上向上させていることは明らかである。 ③年度末のアンケート調査は実施していないが、学習支援者の授業記録の確認、コーディネーターによる口頭でのヒアリングでは、半数の人が支援能力の向上を認めているが、目標値には届かなかったと思われる。 ＜2022 年度＞ ①69 人 ②事業コーディネーターによる評価によれば、どの支援者も経験を重ね、支援能力を一段階以上向上させていることは明らかだが、支援の姿勢は数値的なもの以上に重要な側面であること、そのような数値化しにくい部分は単にスキルトレーニングではなく、支援の経験を他者とともに振り返ることにより、変化がもたらされる。 ③アンケート調査より、回答した 50 人中 34 人（68%）が能力の向上を認識しており、目

					標値は達成できなかった。
７．（学習支援「開始者」向け研修） 学習支援者の日本語・学習支援能力が向上する	①事業コーディネーター及び外部専門家による評価 ②支援者の自己評価	①支援開始段階での観察記録に基づいて設定 ②支援開始段階でのアンケート調査に基づいて設定	①対応能力の５段階評価において 1 段階以上向上 ②「支援能力が向上した」の回答が 80%以上になる	2020 年度末、2021 年度末、2022 年度末、3 年間目標値維持	＜2020 年度＞ ①事業コーディネーターによる評価によれば、どの支援者も経験を重ね、支援能力を一段階以上向上させていることは明らかである。 ②学習支援者へのアンケート調査では、回答した 19 人中 12 人（63%）が「支援能力が向上した」と回答するにとどまり、目標値は達成できなかった。 ＜2021 年度＞ ①事業コーディネーターによる評価によれば、どの支援者も経験を重ね、支援能力を一段階以上向上させていることは明らかである。 ②年度末のアンケート調査は実施していないが、学習支援者の授業記録の確認、コーディネーターによる口頭でのヒアリングでは、半数の人が支援能力の向上を認めているが、目標値には届かなかったと思われる。 ＜2022 年度＞ ①事業コーディネーターによる評価によれば、ど

					の支援者も経験を重ね、支援能力を一段階以上向上させていることは明らかだが、支援の姿勢は数値的なもの以上に重要な側面であること、そのような数値化しにくい部分は単にスキルトレーニングではなく、支援の経験を他者とともに振り返ることにより、変化がもたらされる。 ②アンケート調査より、回答した 35 人中 18 人（51%）が能力の向上を認識しており、目標値には届かなかった。
７～８．（拠点型・アウトリーチ型・オンライン型支援） 散在地域の外国ルーツ青少年、ムスリム家庭の青少年等の抱える教育上の課題に関心をもつ人が増える	①新規活動参加者数 ②シンポジウム参加者数 ③シンポジウム参加者の関心度（アンケート調査）	①0 人 ②0 人 ③0%	①20 人 ②50 人 ③「関心を深めた」の回答が 80%以上	①2020 年度末、2021 年度末、2022 年度末 各年度末 ②、③ 2022 年度末（事業終了時）	＜2020 年度＞ ①43 人 ＜2021 年度＞ ①60 人 ＜2021 年度＞ ①49 人 ②2023 年 2 月下旬頃に実施予定であるため、未集計 ③2023 年 2 月下旬頃に実施予定であるため、未集計
９．ホームページを通じた広報活動をきっかけとして、外国ルーツ青少年が抱える	特設ページへのアクセス数	年 0 件	年 100 件	2021 年度末、2022 年度末 各年度末	＜2021 年度＞ 年 130 件 ＜2022 年度＞ 年 475 件 ※2023 年 1 月時点のアクセス

課題に関心をもつ人が増える					数

②アウトカム達成度についての評価（2000 字以内）

受講者の日本語を読み、書き、話し、聞く能力の向上については、受講者の学習目的やペース、学習環境、生活状況等が個々で大きくことなることから、一人でも多くの受講者が継続して学習に向かえるよう、拠点型、アウトリーチ型、オンライン型の 3 つの学習形態を単独で行ったり、組み合わせたりしながら、柔軟に行ってきた。受講者の継続率は 100%であり、アンケート調査結果からも「学習支援室に参加してよかった」との回答は 82%にも達しており、当団体の学習支援活動に対する満足度や評価も高いことが明らかとなった。最初は、自身の意思に反して学習支援室に来ていた受講者が、学習に対して積極的になったといった変化は、コーディネーターや学習支援者からの観察結果からも見られている。一方、学習者自身の自立学習につながる自己評価の習慣づけ、適切に自身の能力を評価するスキルには課題を感じる点であり、その反復的なトレーニングが必要であると考える。加えて、子どもたちの能力を適切に伸ばしていくためには、子どもをサポートする親の力も非常に重要であることが見えてきている。日本語が不得意な親にとっては、学校との良好な関係の持ち方、子どもの将来を見据えたキャリア支援への関与など、支援団体にお任せという形になりかねない。親自身の意識に変化をもたらし、「親力」を伸ばしていく機会の提供も団体には求められていると感じている。

3 つの学習形態を活用することで、拠点型の学習支援ではリーチできなかった当事者への支援が実現し、「『一人も取り残さない』ための包括的学習支援」のモデル提示ができた。一方で、学習支援をきっかけとして受講者と関わっていく中で、これまで以上に様々な相談も寄せられるようになり、相談対応に従事する人的資源の確保は重要な課題であると考える。

学習支援者の日本語、学習支援能力の向上に関しては、拠点型、アウトリーチ型、オンライン型の各教室において、必ずコーディネーターを配置し、支援者へのフォロー、受講者との適切な関係構築を促せるような体制づくりを行ってきた。また、各種勉強会を行うことで、学習支援能力を高められる機会や、ミャンマーやアフガニスタンといった国の現状を学ぶことで受講者のバックグラウンドを知ってもらう機会を設けてきた。実際に、ミャンマーやアフガニスタンに関する勉強会実施後のアンケート結果では、95%以上の参加者が「参加してよかった」と回答しており、「学習者のバックグラウンドを知る機会になった」「想像力をもって他者を理解しようという気持ちや姿勢の大切さを学んだ」「以前よりも、難民の方の複雑な気持ちに思いを馳せて接することができるようになる」といった声もあ

り、これからもそういった勉強会の機会を求める声は多数寄せられている。日本に住む難民等定住外国人について理解を深め、良き理解者として受講者と関わる良い契機になったと考える。一方で、学習支援者向けに実施したアンケート調査からは、支援能力が向上したと回答した人は 61%と目標を下回っており、その理由として「受講者が成長しているのか良く分からない」といった回答が多く見られた。学習成果は可視化しにくいことから、支援者も日々の活動の手応えを感じにくいと思料する。コーディネーターや支援者への聞き取り調査においては、学習支援の経験を重ねることで、支援者の「支援の姿勢、支援観」の変化が大いにあることが明らかとなっており、支援能力の向上には一定期間の経験の積み重ねが必要であり、支援能力を自己評価していくために複数名での学習支援の振り返りの機会が求められていると言える。

継続的に事業を実施し、学習支援の形が拡がっていく中で、受講者情報管理システムの構築の必要性を感じ、システム開発に踏み出した。2023 年 1 月下旬にシステム開発が完了するため、システムの有効性を実証するには期間が限られている。しかし、団体スタッフが試験的に利用する過程においては、システム開発の目的の一つであった「情報共有の効率性」は十分に認められるものであった。本システムは事業終了後も継続的に活用することで、多くの子ども達、学習支援者が関わる学習支援活動において、受講者に関する情報を適切に管理、共有し、学習の進捗や達成度を可視化することで、より大きな学習成果を挙げることに貢献していくと考える。

外国ルーツ青少年を取り巻く環境や課題の解決を目指す上では、彼らを受け入れている社会側への働きかけが必須であると考えてきた。その一手段として、学習支援室やその他活動、当事者の声を、ホームページや SNS を通じて発信し続けてきており、結果として、当団体のボランティア活動への問い合わせや情報提供、インタビュー、取材といった問い合わせが寄せ続けられていることは特筆すべき成果である。新規の会員や寄付者は微増、ボランティア活動希望者は増加し続けており、これらの成果は団体の活動を維持していくためには必須であり、当該事業が終わりを迎える今、出口戦略としても重要な点であると考える。加えて、現在、日本への定住が増えているムスリムの方々への理解を深めていくことは重要な課題であると考える。宗教的考え方、文化・習慣が大きく異なることから、社会への定着度の薄さを感じており、対応の難しさを感じる部分である。だからこそ、社会側が彼らへの理解を深め、心を寄せていくことができるような機会提供が、外国人支援団体には求められているように感じている。

（２）波及効果（800 字以内）

オンライン型学習支援を継続的に行う過程で、他団体からは実施方法等についての問い合わせが多数寄せられた。オンラインによる学習支援は、コロナ禍でも学びを継続していくために 2020 年 4 月よりスタートさせたが、早い時期から実施していたこともあり、当団体の実施方法は一つの先駆的モデルになっている。当該事業での経験やネットワークを活用し、（一財）ファーストリテイリング財団からの助成を受け、ロヒンギャ難民の子ども達向けにオンライン型の「たてば

やし教室」を開講することとなった。以前より、ロヒンギャ難民の親達からは、子ども達の教育に関する相談が寄せられていたが、事業実施の場所として、群馬県館林地域は遠いことや、東京と違って地方では学習支援者を見つけにくいことなどが理由となり、事業を先に進められずにいた。しかし、オンラインでなら何とかなるかもしれないと実施に踏み切ることができ。開始から約 1 年が経つが、受講者も学習支援者も継続的に参加しており、SYDRIS にて得たオンライン型学習支援のノウハウをうまくモデル展開でき、正の波及効果を生んだ一例と言えよう。

当団体で展開する 3 つの学習支援形態のすべての教室において、受講者や支援者のフォローや各種調整を行うコーディネーターを配置することを徹底しており、有償のコーディネーターの必要性を再確認した。しかし、多くの地域日本語教室、学習支援教室では、資金面での課題からボランティアベースで行われており、コーディネーターの配置は波及していない現実がある。外国ルーツ青少年が学びの場として集う、多くの地域日本語教室の運営体制が変わっていかない背景には、それらの教室等が担う役割の重要性に行政が着目していない現状がある。国からの助成金等がつかない限りはボランティアベースでの活動から抜け出すことは難しく、学びの場の充実化は厳しいことから、社会的課題の一つとしてとらえ直していただくことを期待する。

（３）事業の効率性（800 字以内）

今回助成金を投入したことで、以前から行っていた拠点型に加えて、新たに開始したアウトリーチ型・オンライン型の 3 つの学習形態により、多くの学習希望者に学びの場を提供することができた。特に、当団体におけるオンライン型学習支援の定着は、多くの外国ルーツ青少年に学習機会をもたらすことができた点や、オンライン型学習支援の効果を確認、検証することができ、今後の可能性を見出すことができた点でも評価できると言えよう。オンライン型においては、会場不要で実施できる点において、会場の準備・予約・支払にかかる手間が省かれ、会場費やそこに出向く学習支援者の交通費等も発生しないことから、資金面でも効率的であったと言うことができる。当初の計画時よりも、アウトリーチ型に比べてオンライン型の比重が大きくなっていった経緯もあり、結果的には事業規模を変えずに資金面を削減できることとなった。しかしながら、拠点型・アウトリーチ型のニーズは高まっており、対面形式で学習支援を行うことは支援者との信頼関係も構築しやすく、学びの継続に繋がっているとも考える。当該事業に投入したインプットがあったからこそ、各学習支援形態の長所短所が明確になり、個々の学習希望に対してその目標と環境を考慮しつつ、最善の学習支援のメニューの提示ができるようになった点も重要な気づきであったと考える。

また、3 年間の事業を通して、新たに教室に関わるコーディネーターや学習支援者など、外国ルーツ青少年の分野に関わる人材の育ちに大きく貢献してきたと考えており、事業継続のためにも人材の育成、確保ができた点は大きな成果である。特にコーディネーターにおいては、受講者や支援者への連絡調整、各種事務作業のみならず、昼夜問わず受講者や支援者からの相談にのり、きめ細かい対応をしている。コーディネーターとの間に信頼関係が構築されたことで、活動参加にやや消極的であったり、不安を抱えていたりする受講者、支援者であっても継続的に教室に集うことができており、結果的に活動を推進する力となっ

ている。コーディネーターの配置は、ある程度のコストが発生するものの、受講者の学びが中断されることなく継続できた点においても大きな成果を挙げており、事業の効率性は非常に上がったと評価している。

6．結論（1,500 字以内）

8 - 1 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
（1）事業実施プロセス				✓	
（2）事業成果の達成度					✓

（1）、（2）それぞれ 1 箇所を選択（✓）する。

事業実施のプロセスにおいて、受講者向けには、拠点型・アウトリーチ型・オンライン型の学習形態を用いながらアプローチすることで、今までリーチできなかった人々に学習機会を提供することが出来た点で、「『一人も取り残さない』ための包括的学習支援」という目標の達成に大きく貢献したと考える。当初の事業計画には含まれていなかったオンライン型学習支援であったが、2020 年 4 月のスタート以来、オンライン環境が整っていさえすればどこからでも学習の場に参加することが出来、今や新たな学習機会の創出のために欠かすことのできない支援形態となっている。学習支援者には、開始者と経験者向けとに分け、各種勉強会・研修会を提供してきた。支援能力の向上に直接結びつくようなハウツーを学ぶ機会だけではなく、目の前の受講者のバックグラウンドを学んだり、当事者の声を聴いたりする機会も作り出したことで、より多くの参加者が集い、日々の学習支援のモチベーションにも繋がっていることが分かった（別添「学習支援者に対するアンケート調査」を参照のこと）。また、学習支援や勉強会・研修会を通して、実際に外国ルーツ青少年と接し、知っていくことで、彼らの良き理解者となってくれるような働きかけを行ってきたが、それらも着実に成果をあげていると考える。加えて、SNS を通じた広報活動の充実化や、外部講演会への参加、学生たちの積極的な受け入れ等を実施してきており、こういった活動も新規の学習支援者獲得に繋がり、外国ルーツ青少年への理解のある人々・社会を作り出す機会ともなってきた。

事業成果の達成度という点について、受講者においては、学習支援の場が「読み・書き・話す・聞く能力の向上、学業の継続、学校成績の向上、進級・進学の達成」の実現のみならず、「自己肯定感や自信の獲得、対人関係スキルの構築」等の変化を生み出すことも期待して事業を行ってきたが、そういったプラスの変化は受講者に対するアンケート調査結果からも明らかである。調査結果によれば、全体の 62%もの受講者が「勉強が楽しくなった」「勉強について、前よりも自信がついた」と、自身の学習意欲の向上や学習に対する自信の獲得を認識している。さらに、全体の 23%は「勉強や学校について、話せる人や時間

が増えた」と回答しており、学習の場を通して対人関係の広がりを見ることができ、大きく評価できる部分といえよう（別添「受講者に対するアンケート調査」参照のこと）。また、3 つの学習形態を用いることで、週末のみ決まった場所で開催されていた教室が、今では毎日あらゆるところで開催されており、受益者数は年間で延べ 4,713 人にものぼった（2021 年度実績より）。また、当該事業で培われたオンライン型学習支援のノウハウやスキルは、他の団体の参考モデルとなったり、ロヒンギャ難民の子どもたち向けにオンライン型の「たてばやし教室」へと事業展開することができたりと、想定以上の成果をおさめており、多くの学習ニーズを掬い上げる結果ともなっている。学習支援者においては、支援能力の向上を目指して活動を展開してきたが、自己評価による能力の向上を認めた人は 61%にとどまっており、アンケート結果からも「受講者が成長しているのか良く分からない」との回答が目立った。受講者の成長は日々の積み重ねであり、成績やテスト結果があがるといった目に見える変化は捉えにくいことに起因していると思われる。成績やテストで示される数字だけに捉われることなく、受講者の小さな変化も支援者に共有し、共に成長や変化を喜び見守っていくことの必要性を感じている。2020 年度の事業実施以降、SNS を通じた広報活動や、講演活動、学生たちとの関わりを通じて、当団体で活動することを希望される支援者は増えておおり、人脈・ネットワークの拡がりは一つの大きな成果である。これらの成果は、今後も現行の事業を継続していくために大きな力ともなり、新たな事業を展開していく際にも大きな原動力になると考える。

７．提言(1,500 字以内)

外国ルーツ青少年を取り巻く社会課題に取り組んでいく上で、今までの活動や今回の助成事業により得られた学びを、当団体からの提言として、①知見や教訓、②日本社会として必要な視点、取り組み、制度など、③課題に取り組むプレーヤーとしての成長、発展のための団体戦略と連携、等について以下に記していく。

当該事業にて新たな取り組みとして始めた拠点型の行徳教室や、オンライン型学習支援教室で得られた知見、教訓として、受講者と学習支援者への連絡調整や各種フォロー等を行うコーディネーターの配置の重要性が挙げられる。教室の適切な運営のために、有償にて、きちんと責任感を持って取り組む人材の確保は必須である。どのような学習形態を取るにしても、学習者や支援者のフォロー、教室全体をフォロー、外部との連携をフォローする担当者またはコーディネーターが必要となり、相応の予算を確保すべきであると考える。また、オンライン型学習支援を行う場合でも、受講者と学習支援者とでの個別学習に入る前に、必ずメインルームにて団体関係者（コーディネーターやスタッフ）と顔を合わせるかたちを作ることが重要であり、受講者が何か困った際に相談できるような関係づくりが構築されていることが望ましい。特に、オンライン型学習支援においては受講者と支援者との閉じられた世界で物事が進んでしまいがちであるため、顔を合わせる時間が少ない分、団体側と受講者との関係が希薄になりかねないため、団体側が受講者や支援者と関われる仕組み（ルール）を積極的に作る必要がある。日本に在住する外国人が増加し、散在化が進む現在の日本社会において、オンライン型学習支援の取り組みは、日本語や学校教科を

学べる教室がない空白地域に住む外国ルーツ青少年の学びを助ける有効な手段であり、今後も注目される学習形態であると考えることから、より効果的で有効な実施方法が検討されるべきであると考える。

昨今の世界的情勢の大きな変化に伴い、定住外国人の数は増える一方であるが、中でもムスリム圏からの人々の増加は注目すべき事実であると考える。日本ではあまり馴染みのない独特な宗教的慣習、考え方を持つムスリムの方と接していく際には、接する側である私たちにも心の備え、知識が必要である。日本社会で暮らしていく外国ルーツ青少年への直接的な働きかけは必要であるが、同時に、受け入れ側である私たちも彼らについて学び、良き理解者となれるよう努めていく必要がある。双方の歩み寄りをしていけばこそ、外国ルーツ青少年を取り巻く社会課題の解決に繋がっていくと考える。

課題に取り組むプレーヤーとして成長、発展していくために、団体としては今後も、外国ルーツ青少年への直接的な支援を継続的に行っていく。加えて、社会側への啓発活動を行うことで、一人でも多くの理解者を増やし、彼らに寄り添って伴走していけるような社会を作り出していけるよう微力ながらも邁進していきたい。当団体だけでは力不足であるが、全国に存在する外国人支援団体が同じ方向性で取り組んでいくことで、社会を変えていく大きな力になっていくと考えており、来日者数が増える今、外国人支援団体との連携も今後ますます必要になってくると考える。また、上記を行っていくためにも、活動を実施していくための資金源の確保、団体の活動に賛同し助成を継続的に行ってくれる先の確保は喫緊の課題であり、その点を強化していくことが今後の団体戦略の鍵になってくると考える。

参加費無料

防災のプロによる

防災ワークショップ

日にち	2022年9月3日（土）10:00-12:00
内容	・地震が起きたら、どうする？（すぐ後、揺れがおさまってから、後の対応） ・今からできる、自宅での地震への備え
対象者	日本で暮らす外国人の方、どなたでも参加できます。 ※通訳がつきますので、日本語が苦手な方も安心してご参加ください
会場	オンライン（Zoom）で行います ※ご自宅から参加できます
講師	NPO法人 プラス・アーツ 小倉 丈佳さん
申し込み	以下より、お申し込みください https://forms.gle/N3AucahBNZ8iptm5A

社会福祉法人さぽうと２１

TEL: 03-5449-1331 / E-mail: info@support21.or.jp

ファイナンシャルプランナーによる

せいかつべんきょうかい

生活勉強会

参加費
無料

日にち	2022年11月12日（土）～ 2023年1月21日（土） ※土曜日 10:30-12:30
内容	生活の質を高めるために必要なことを、しっかり学びます。 ※詳しいスケジュールや内容は、次のページを見てください。
対象者	どなたでもご参加いただけます。 ※当日は、通訳が付きます。
会場	オンライン（Zoom）で行います。自宅から参加してください。
講師	NPO法人 Wco.FP の会 青山 雅恵さん、溝江 淳子さん
申し込み	さぽうと２１スタッフにお知らせください。

社会福祉法人さぽうと２１

TEL: 03-5449-1331 / E-mail: info@support21.or.jp

	日時	タイトル	学べる内容
1	11/12（土） 10:30～12:30	日本の社会保険制度を知ろう①	・公的医療保険と、公的介護保険について
2	11/26（土） 10:30～12:30	日本の社会保険制度を知ろう②	・公的年金制度のしくみを知ろう
3	12/10（土） 10:30～12:30	老後の備え	・年金制度のポイントを復習 ・年金定期便の見方を知ろう ・老後の備えのために、今からできること
4	1/14（土） 10:30～12:30	税金について知ろう	・所得税や住民税の基本 ・源泉徴収票の見方を知ろう
5	1/21（土） 10:30～12:30	※未定だが、以下案のどちらかを検討中 ・子どもの教育にかかるお金 ・住宅資金について	（参加者の皆さんの希望を聞きながら、テーマを決めます）

ファイナンシャルプランナーによる

生活勉強会

参加費
無料

日にち	2022 年 9 月 7 日（水）～ 2022 年 10 月 5 日（水） ※水曜日 19:30-21:00、全 5 回の講座です。
内容	生活の質を高め、将来に備えるために、大切なことを学びます。 ※詳しいスケジュールや内容は、次のページをご覧ください。
実施方法	オンライン（Zoom）で行います。
講師	NPO 法人 Wco.FP の会 青山（あおやま） 雅恵（まさえ）さん、溝江（みぞえ） 淳子（あきこ）さん ■NPO 法人 Wco.FP の会とは： ライフプランに関する講座の企画や講師派遣、個人相談等の活動を行っており、ファイナンシャル・プランニングに関する知識の啓発と普及を行っている。https://fpnokai.org/
申し込み	メールフォームにてお申し込みください。 https://forms.gle/vxH5kMtnqNemCHyEA

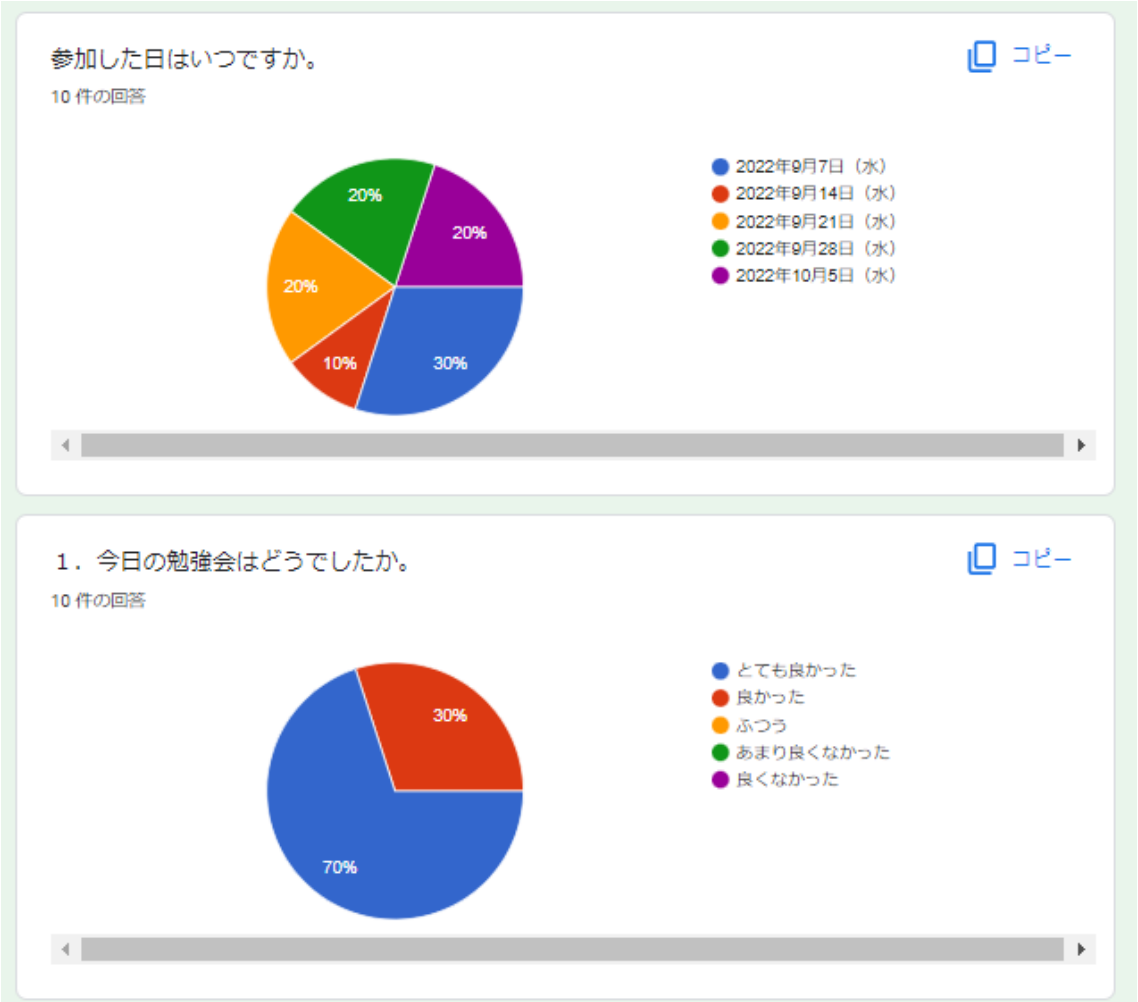
社会福祉法人さぽうと２１

TEL: 03-5449-1331 / E-mail: info@support21.or.jp

	日時	タイトル	学べる内容
1	9/7（水） 19:30～21:00	ライフプランを描いてみよう	・ライフプランの各種シート（ライフイベント表・キャッシュフロー表・バランスシート）の作り方と活用法 ・人生の 3大資金（教育、住宅、老齢資金）の考え方のポイント
2	9/14（水） 19:30～21:00	日本の社会保険制度と、 リスクに対する備えについて考えよう	・社会保険制度（医療、介護、労災、雇用保険）について ・民間保険に加入する前に知っておきたいこと
3	9/21（水） 19:30～21:00	公的年金と、じぶん年金について知ろう	・年金制度のしくみを知ろう ・ねんきん定期便の見方 ・じぶん年金の考え方と作り方
4	9/28（水） 19:30～21:00	税金について知ろう	・所得税や住民税の基本 ・源泉徴収票の見方を知ろう
5	10/5（水） 19:30～21:00	将来に備えるために、資産形成を始めよう	・先取り貯蓄とは ・資産運用を始める前に知っておきたい基本知識

生活勉強会（若者向け）アンケート結果

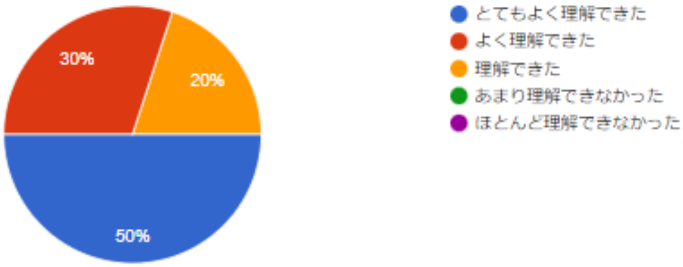
実施時期：2022 年 9 月 7 日（水）～10 月 5 日（水）



2．今回学んだ内容について、どれぐらい理解できましたか。

コピー

10 件の回答



3．参加した感想や、お話の中で分からなかったことなど、質問がありましたら書いてください。

5 件の回答

参加して良かったです。次回の内容も楽しみにお待ちしております。

今まで理解できなかった分野が少しわかるようになりました。今から将来のことを細かくプランしようと思っています。勉強会に参加できて大変満足しています。

専門用語など、難しい語彙も多かったですが、参加者の方々が内容を理解し、自分の事と結びつけて質問されていて、すばらしいと思いました。社会人になるにあたって、知っておくべき情報がたくさんありました。高校生を対象とするとさらに内容を絞って噛み砕く必要があると思いますが、大変参考になりました。
内容に関して、私はたまらない貯蓄をしていたので、ぜひ今後は先取り貯蓄を心がけたいと思います。有益な情報をいただき、どうもありがとうございました。

投資や資産運用と聞くと、どうしてもリスクのほうを考えてしまい、なかなか手を付けられないのですが、いろいろな商品があることを知り、ちょっとでもはじめてみようかなという気持ちになりました。どうもありがとうございました。

金融資産の運用など全く理解していなかったけれど勉強会を通して理解できました。とても勉強になりました。この機会をくださりほんとにありがとうございました。またこのような勉強会に参加したいと思います。

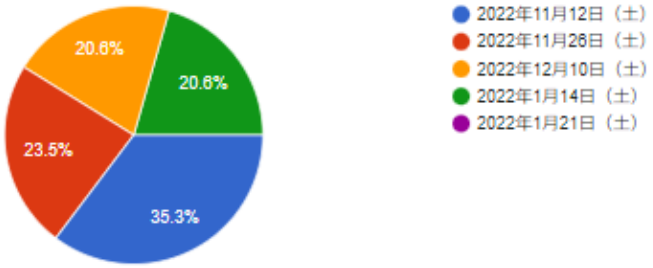
生活勉強会（大人向け）アンケート結果

実施時期：2022 年 11 月 12 日（土）～2023 年 1 月 14 日（土）

参加した日はいつですか。

コピー

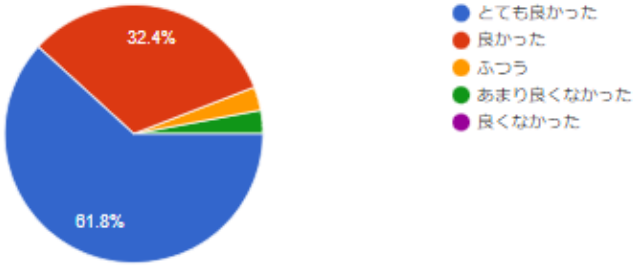
34 件の回答



1．今日の勉強会はどうでしたか。

コピー

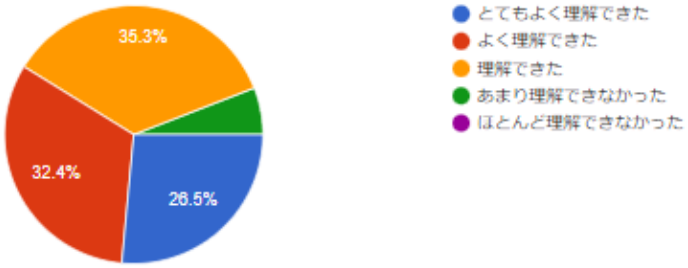
34 件の回答



2．今回学んだ内容について、どれぐらい理解できましたか。

コピー

34 件の回答



3．参加した感想や、お話の中で分からなかったことなど、質問がありましたら書いてください。

17 件の回答

N.A

thanks

とてもいいです。ありがとうございます

優しい説明してくれたのでいままでは分からないところがありません。先生方々、ありがとうございました。またよろしくお願いします。

今まで医療保険制度についてあまりよく知らなかったけれど、今回の勉強会で分かるようになった。

たくさん勉強になりました。新しい知識を身に付け、生活にも活用したいと思います。

最高です。

とてもいいですね。ありがとうございます。

初めて聞いた話もあってとても勉強になりました。

また今度もよろしくお願いします。

Thank you so much

特にありません

ありがとうございました。

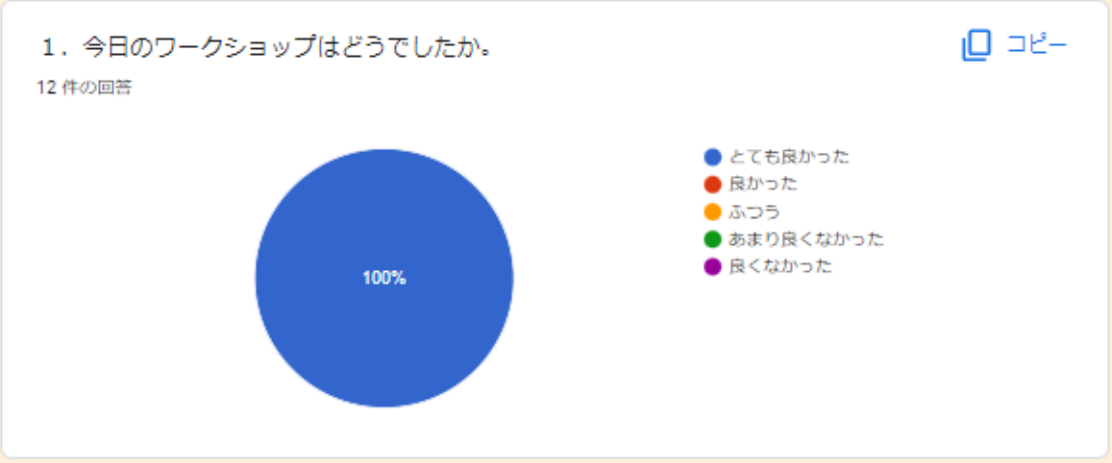
NA

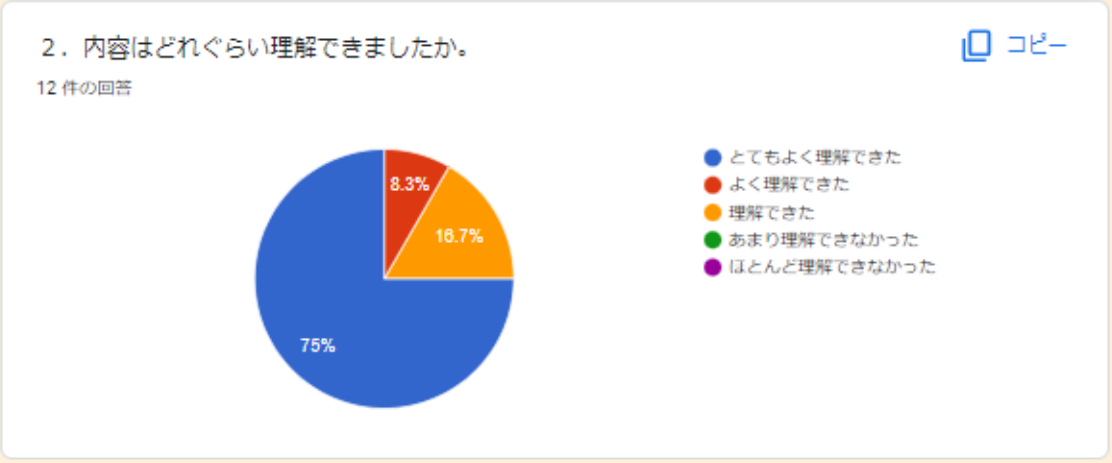
とてもいいワークショップです。ありがとうございます。

とても分かりやすかったです。ありがとうございました。

防災ワークショップ　アンケート結果

実施時期：2022 年 9 月 3 日（土）





３．参加した感想や、お話しの中で分からなかったことなど、質問がありましたら書いてください。

9 件の回答

無いです。

N.A

I understanding very well thanks for such workshop in the future

ようかった

みなさんの質問が実生活につながるもので、いろいろきちんと考えていることに感心しました。私は地震に鈍感になっている部分があるので、勉強になりました。

ありがとう

とても具体的で良い説明と質疑をありがとうございました。全て理解できましたが、きちんと準備を整え、ローリングストック法を実行するのは大変で、なかなか思うようにいきません。また、家を出ている時の必須アイテムと心構えも知りたいといつも思っています。

今まで迷ったことや知らなかったことを勉強できまして、よかったです。防災のことを教えてくれた先生方々、ありがとうございました。またよろしくお願いします。

A big thanks from support21 this kind of presentation is very useful we waiting for another one like this other presentation about Japan rules , culture and history also important if possible in the next future.

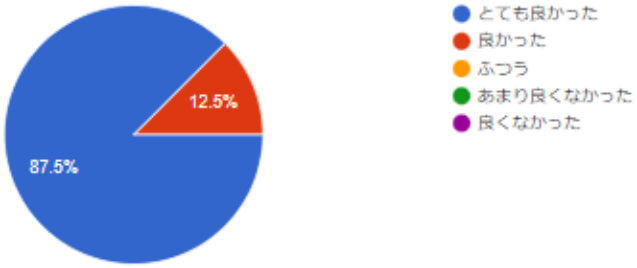
健康ワークショップ　アンケート結果

実施時期：2022 年 10 月 8 日（土）

1．今日のワークショップはどうでしたか。

コピー

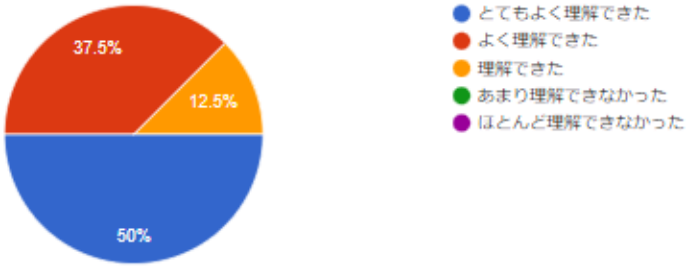
8 件の回答



2．内容はどれぐらい理解できましたか。

コピー

8 件の回答



3．参加した感想や、お話しの中で分からなかったことなど、質問がありましたら書いてください。

5 件の回答

ありがとうございました

とても役に立ってます。

役に立たと思います。

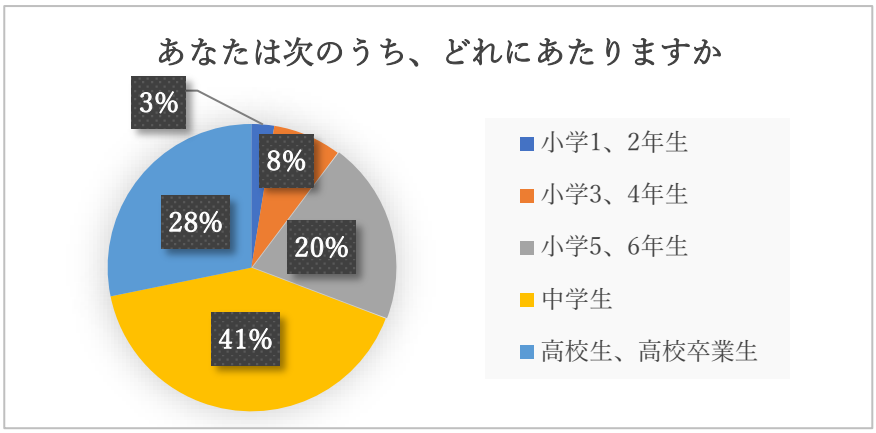
ありがとうございました。

調査報告

①受講者に対するアンケート調査

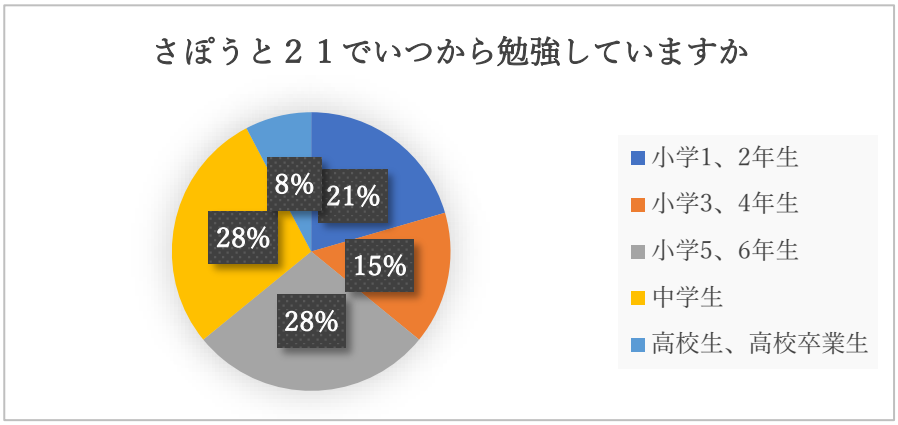
調査実施時期：2022 年 11 月～2022 年 12 月

受講者に対する学習の向上に関する自己評価と事業への要望（回答 計 39 人）



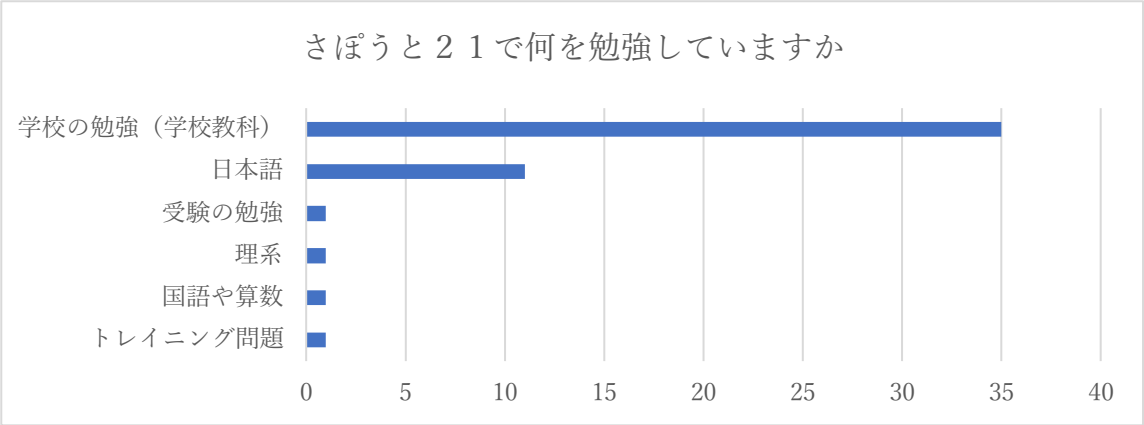
あなたは次のうち、どれにあたりますか

小学 1、2 年生	1
小学 3、4 年生	3
小学 5、6 年生	8
中学生	16
高校生、高校卒業生	11



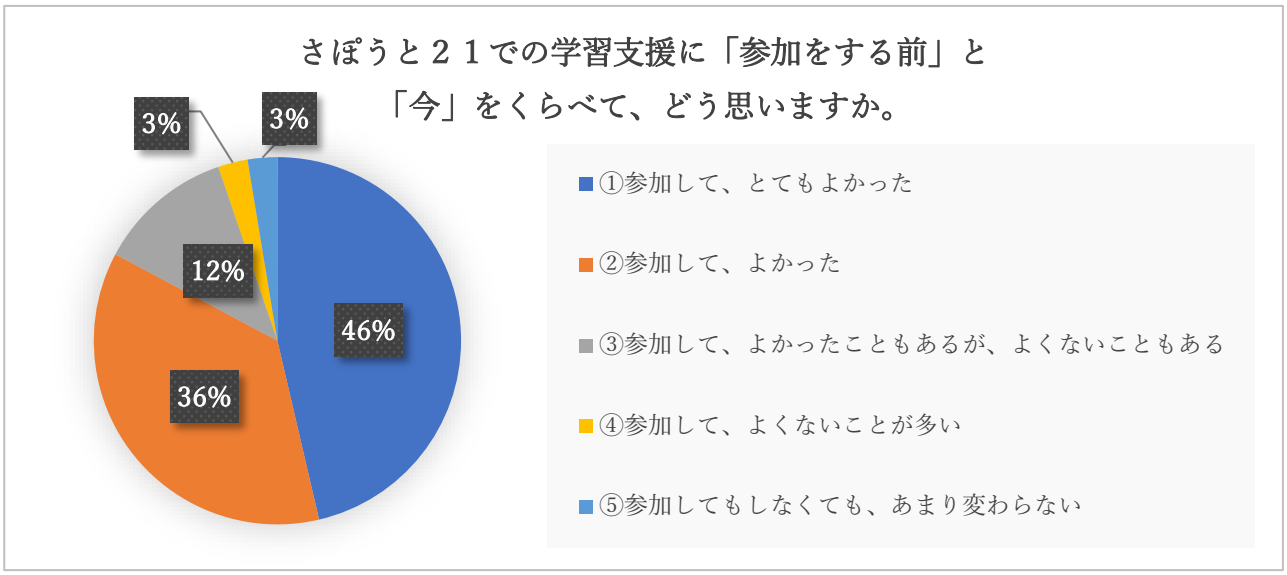
さぽうと２１でいつから勉強していますか

小学 1、2 年生	8
小学 3、4 年生	6
小学 5、6 年生	11
中学生	11
高校生、高校卒業生	3



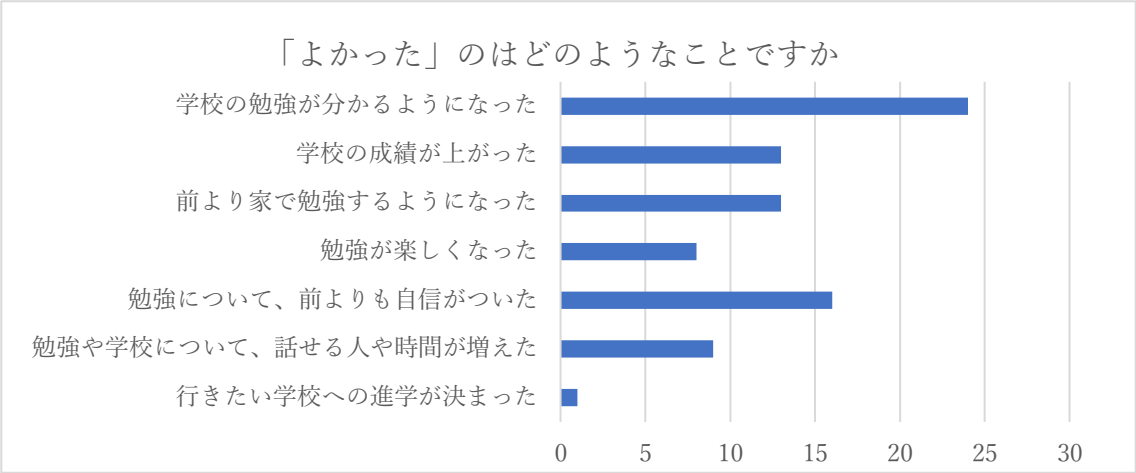
さぽうと２１で何を勉強していますか（複数回答可）

学校の勉強（学校教科）	35 (90%)
日本語	11 (28%)
受験の勉強	1 (3%)
理系	1 (3%)
国語や算数	1 (3%)
トレーニング問題	1 (3%)



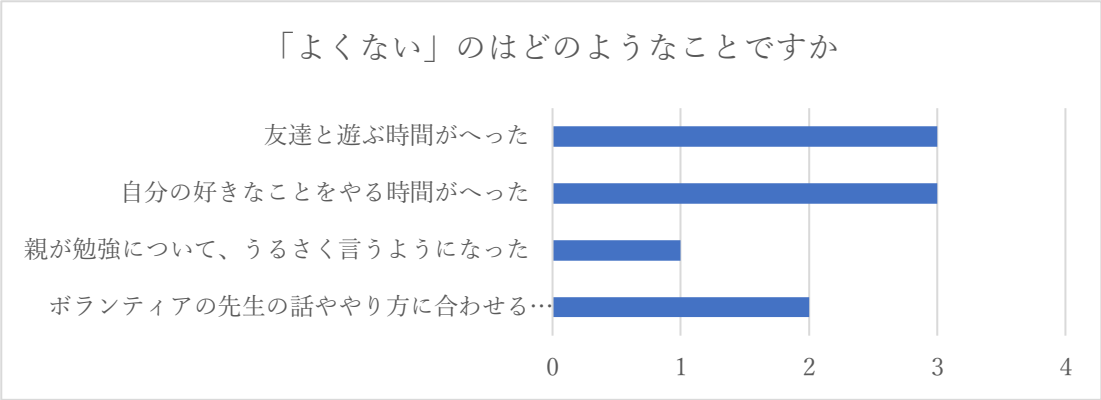
さぽうと２１での学習支援に「参加をする前」と「今」をくらべて、どう思いますか

①参加して、とてもよかった	18
②参加して、よかった	14
③参加して、よかったこともあるが、よくないこともある	5
④参加して、よくないことが多い	1
⑤参加してもしなくても、あまり変わらない	1



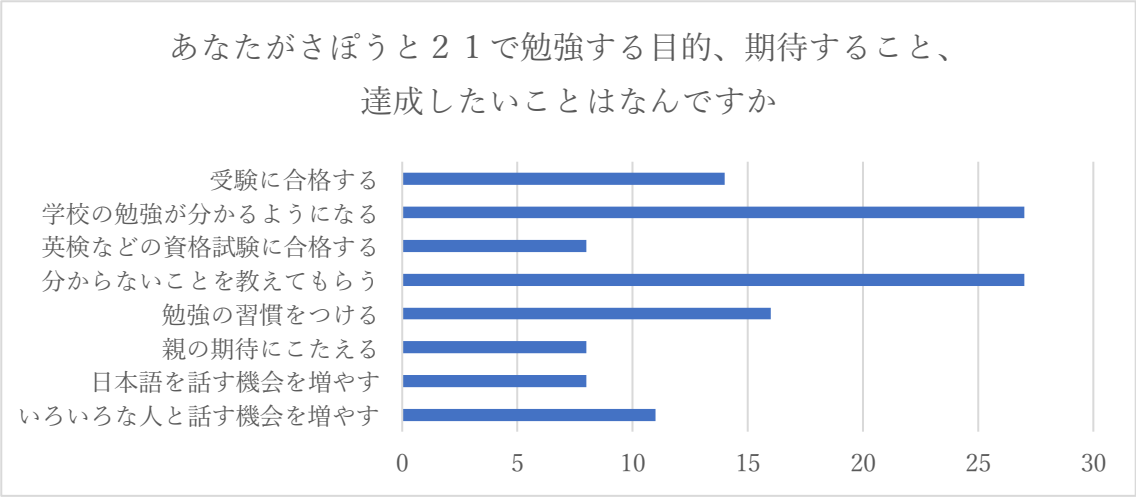
「よかった」のはどのようなことですか（複数回答可）

学校の勉強が分かるようになった	24 (62%)
学校の成績が上がった	13 (33%)
前より家で勉強するようになった	13 (33%)
勉強が楽しくなった	8 (21%)
勉強について、前よりも自信がついた	16 (41%)
勉強や学校について、話せる人や時間が増えた	9 (23%)
行きたい学校への進学が決まった	1 (3%)



「よくない」のはどのようなことですか（複数回答可）

友達と遊ぶ時間がへった	3 (8%)
自分の好きなことをやる時間がへった	3 (8%)
親が勉強について、うるさく言うようになった	1 (3%)
ボランティアの先生の話ややり方に合わせるのがむずかしい	2 (5%)



あなたがさぽうと２１で勉強する目的、期待すること、達成したいことはなんですか（複数回答可）

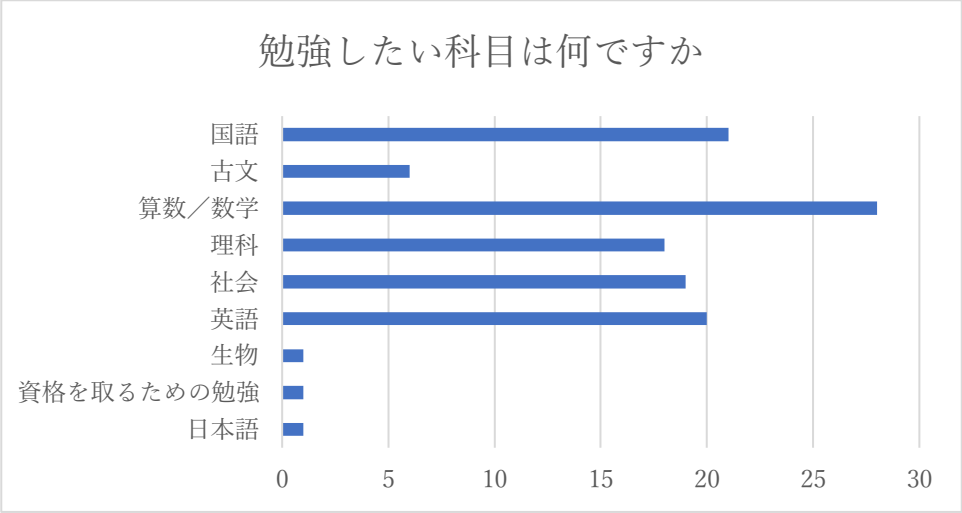
受験に合格する	14 (36%)
学校の勉強が分かるようになる	27 (69%)
英検などの資格試験に合格する	8 (21%)
分からないことを教えてもらう	27 (69%)
勉強の習慣をつける	16 (41%)
親の期待にこたえる	8 (21%)
日本語を話す機会を増やす	8 (21%)
いろいろな人と話す機会を増やす	11 (28%)

さぽうと２１で先生と勉強しているとき、困ったことや嫌だと思ったことはありますか（自由回答）
（注：以下「自由回答」部分は原文のまま記載する）

「とくになし」29（74%）、「その他」10（26%）は以下の通り：
・資料を事前に共有出来れば効率良くなると思った
・先生の側が ZOOM の上手に操作できないとき。例えば white board 利用など。
・すぐに画面共有できないこと。
・電波が悪い時にスムーズに学習できないこと。"
・音が聞こえづらいとき、問題が分かりづらいとき
・毎回先生が変わって理解できないのが嫌です。
・たまに教え方が悪いときがある
・怒られるのが嫌です。
・たまに価値観が合わない
・喋ってくれないと気まずいし、話しづらくなる。
・騒がしい

考察

自己評価の満足度は高く、「勉強がわかるようになる」「勉強の習慣をつける」という目的と、それに応じた結果が得られている。学習能力の向上が自己認識できるようになっただけでなく、「勉強について、前よりも自信がついた」といった自己肯定感の向上にも良い影響を与えていることがわかる。これらの回答の属性（小学校など低学年からさぽうと２１で学習しているかどうかなど）を比較したが、とくに特徴や違いは見られなかった。

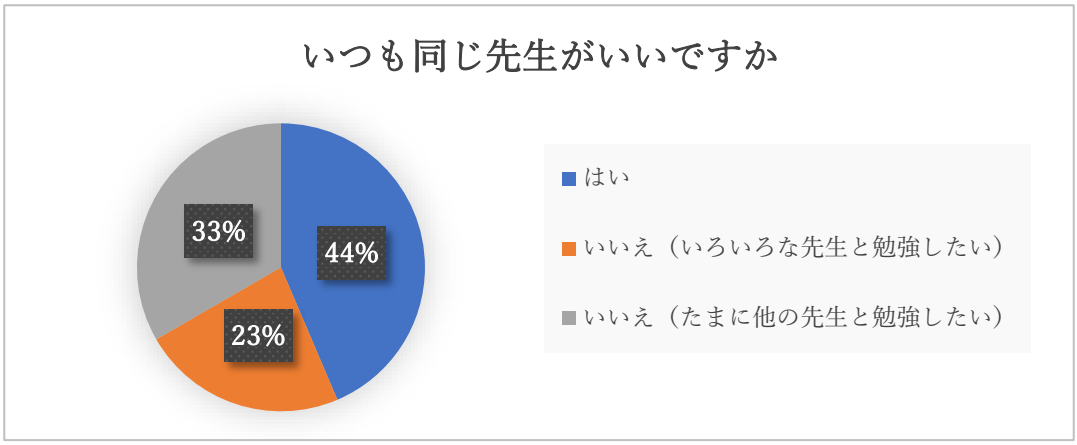


勉強したい科目は何ですか（複数回答可）

国語	21 (54%)
古文	6 (15%)
算数／数学	28 (72%)
理科	18 (46%)
社会	19 (49%)
英語	20 (51%)
生物	1 (3%)
資格を取るための勉強	1 (3%)
日本語	1 (3%)

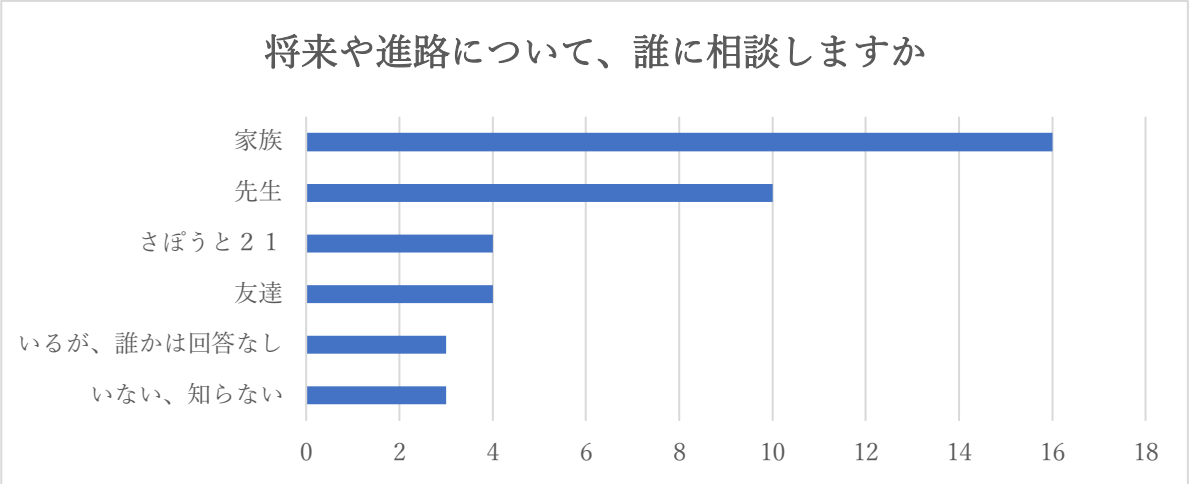
さぽうと２１での勉強について、「こうしたらもっと良くなる」というアイデアをぜひ教えてください。（自由回答）

・先生に事前にやりたい問題や資料を共有出来ればすごく効率が良くなると思った。
・個人個人で勉強するより、複数人で勉強した方が楽しく思える
・I think it is good to study same level students together, not only one.
・たまには行徳教室の全員で勉強したい
・難しくてわからなかったところをわかりやすく説明してほしい。
・わかんないことを話せたらわかるようになる。
・学校の授業を全部できるようにする
・漢字をもっと覚えたい
・先生が変わらないようにするといい。
・zoom ともうひとつ(LINE)アプリを活用して画面共有してスムーズに進められるようにする。
・夏涼しくしてください。
・ミャンマーの料理を皆で作ったり、お餅つき会を皆でやったりするとよいと思います。また、習字を書く会（習字バトル）や、絵やイラストを描いて展覧会をするのもよいと思います。
・その他、皆でどこかへ（富士山など）で出かけるイベントなど。
・たまに外で遊ぶ



いつも同じ先生がいいですか

はい	17 (44%)
いいえ（いろいろな先生と勉強したい）	9 (23%)
いいえ（たまに他の先生と勉強したい）	13 (33%)



将来や進路について、誰に相談しますか（自由回答）

家族	16 (41%)
先生	10 (26%)
さぽうと２１の先生	4 (10%)
友達	4 (10%)
いるが、誰かは回答なし	3 (8%)
いない、知らない	3 (8%)

目標としている人や仕事などはありますか。（自由回答）

・医師　（3 名）
・医者、イラストレーター、歌手、ダンサー
・幼稚園の先生
・学校で働きたい
・イスラム教についての勉強を教えたい
・いい高校に行きたい
・大学
・教師や通訳者の仕事です。
・国際公務員
・警察官
・サッカー選手　（3 名）
・野球選手
・会社の会長
・法律関係の仕事
・編集者
・世界
・自立できる人間
・漫画家
・システムエンジニア
・明るい人、料理人、エンジニア
・写真家（カメラ関係)、マネージャー
・とくにない　（9 名）

オンラインでの勉強と教室での勉強に違いはありますか。それは何ですか。（自由回答）

「教室の方が良い」という意見（11 名）：
・はい。教室では、たくさんの人と話せたり、実践的にいろいろなことができます。
・教室のほうが集中できる
・最近はさぽうと２１にいる人数が少なくてとても集中できる。
・教室のほうが勉強しやすいです
・教室での勉強のほうがやりやすい
・近くに居ないからオンラインは分かりにくい
・コミュニケーション不足が起こりやすい。
・オンラインだと少し分かりにくい場面がある。
・I can focus on study better in classroom.
・フリーズする
・ある、オンラインは理解ができない

「オンラインの方が良い」という意見（8 名）：
・勉強の時、分からない時先生とすぐ資料など共有して理解が深められる。
・オンラインの方が色んな人とできるけど教室だと同じ先生が来るかもしれない。たまに違う先生とも勉強したい。
・コロナの前のサポート２１だったらずっとオンラインでの勉強が集中できると思います。
・オンラインは自由に話せる。教室はうるさい
・分からないところをすぐに聞ける
・オンラインだと先生が教えてくれる。
・いつでもできる
・スピード

その他（とくにない、など　20 名）

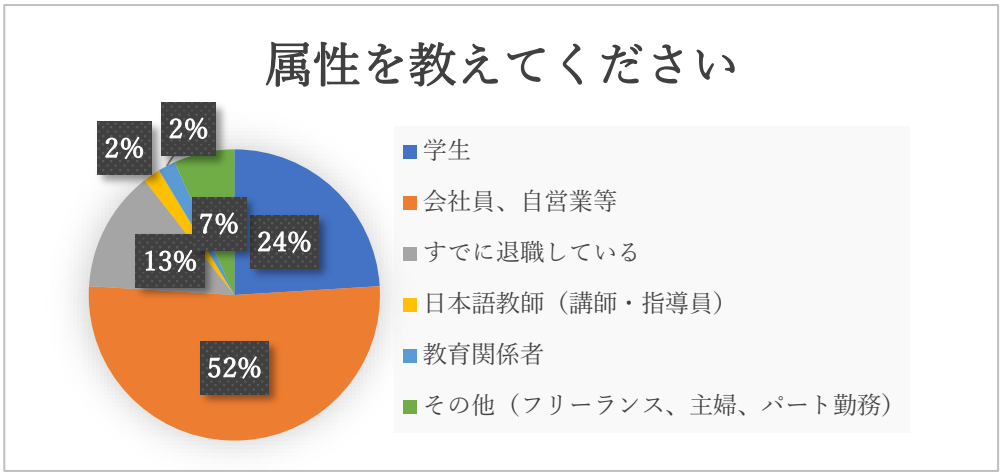
考察

オンライン型学習支援が定着し、オンライン型を肯定的に捉える意見がある一方で、従来からの拠点型（対面型）学習の利点も指摘され、拠点型を望む受講者も相当数いることがわかる。受講者の学習スタイルに合わせた支援の必要性を示している。

②学習支援者に対するアンケート調査

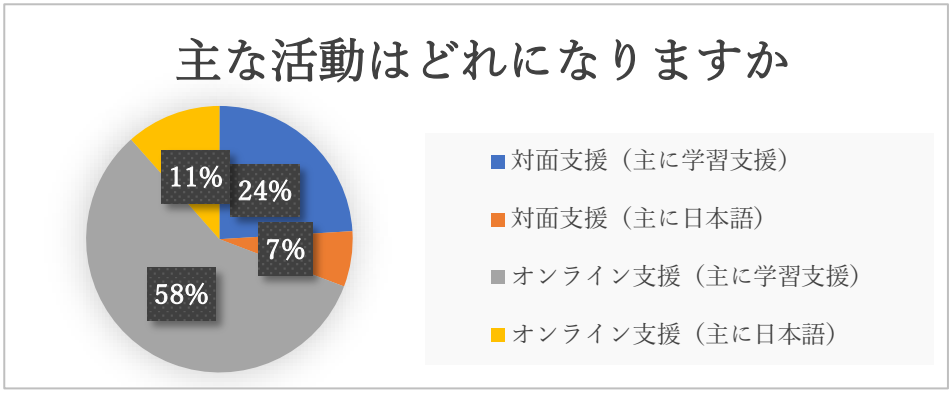
調査実施時期：2022 年 12 月

学習支援者に対する学習支援の向上に関する自己評価と事業への要望（回答 計 104 人）



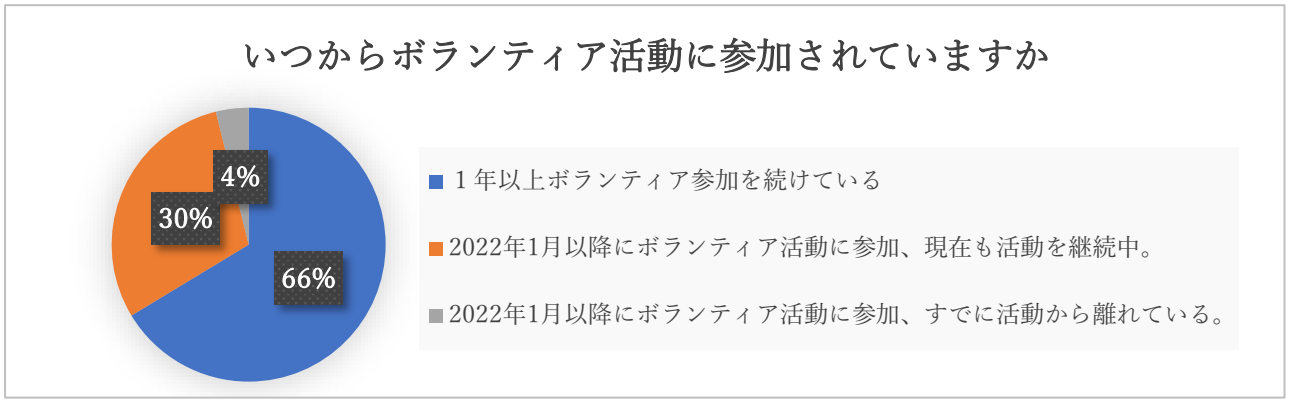
属性を教えてください

学生	25
会社員、自営業等	54
すでに退職している	14
日本語教師（講師・指導員）	2
教育関係者	2
その他（フリーランス、主婦、パート勤務）	7



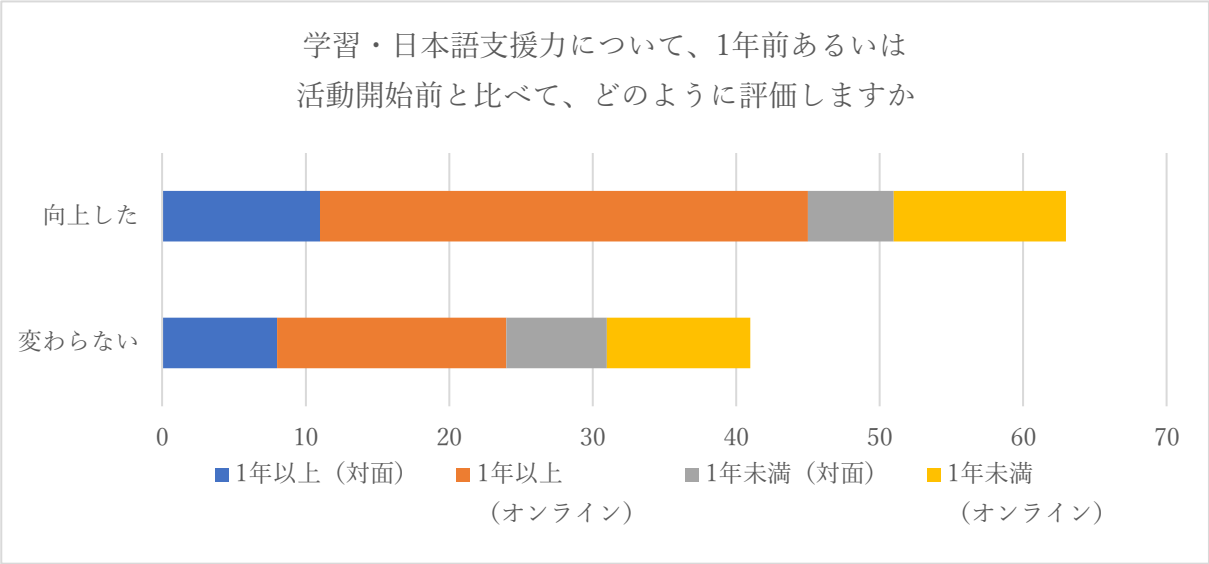
主な活動はどれになりますか

対面支援（主に学習支援）	25
対面支援（主に日本語）	7
オンライン支援（主に学習支援）	60
オンライン支援（主に日本語）	12



いつからボランティア活動に参加されていますか

1年以上ボランティア参加を続けている	69
2022年1月以降にボランティア活動に参加、現在も活動を継続中。	31
2022年1月以降にボランティア活動に参加、すでに活動から離れている。	4

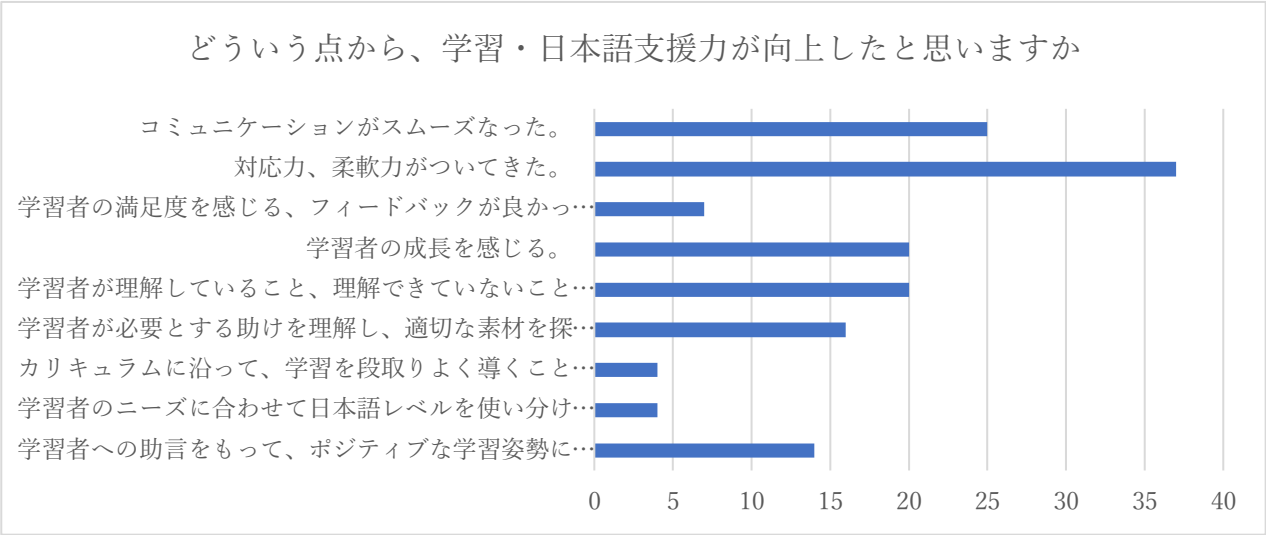


学習・日本語支援力について、1年前あるいは活動開始前と比べて、どのように評価しますか

向上した（計63）
1年以上45（対面11、オンライン34）
1年未満18（対面6、オンライン12）
あまり変わらない（計41）
1年以上24（対面8、オンライン16）
1年未満17（対面7、オンライン10）

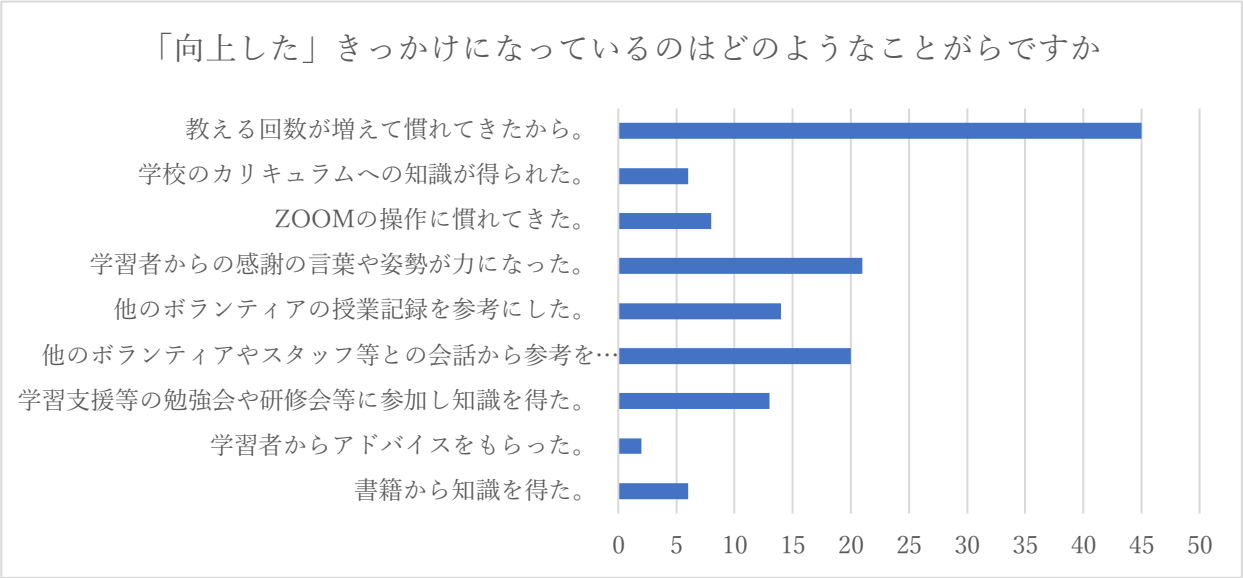
考察

「向上した」との回答は、1年以上ボランティアを継続している支援者、およびオンライン支援を行う者が比較的高かった。学習支援の回数を重ね、経験を積んでいく中で、学習・日本語支援力の向上を実感する人が多く、実践の場が必要であることがわかる。1年以上継続している人数、オンライン支援に関わる人数がかなり多いため、「向上した」と回答した人の特徴はわからなかった。



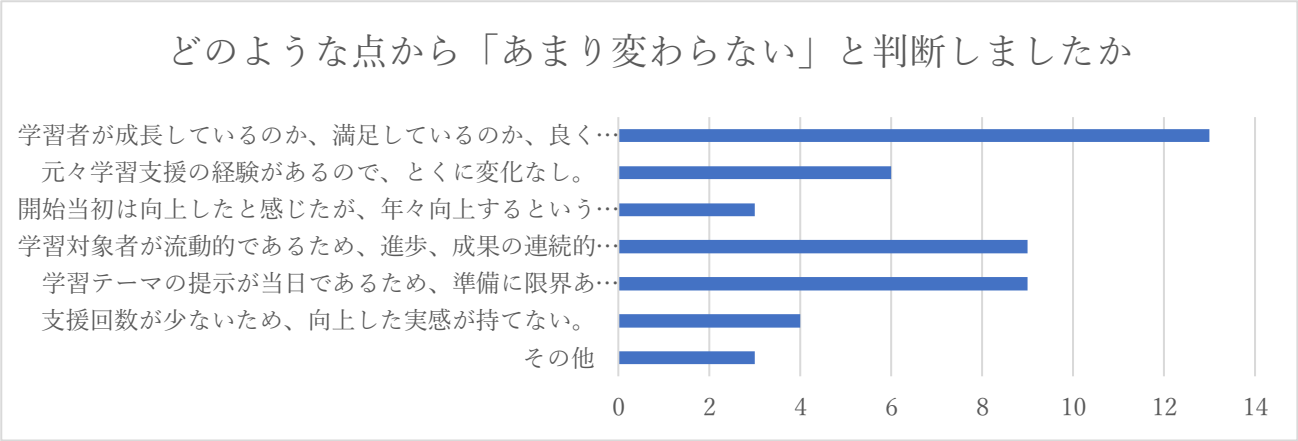
どういう点から、学習・日本語支援力が向上したと思いますか。（63 人、複数回答可）

コミュニケーションがスムーズなった。	25 (39%)
対応力、柔軟力がついてきた。	37 (58%)
学習者（受講者）の満足度を感じる、フィードバックが良かった。	7 (11%)
学習者（受講者）の成長を感じる。	20 (31%)
学習者（受講者）が理解していること、理解できていないことを把握できるようになった。	20 (31%)
学習者（受講者）が必要とする助けを理解し、適切な素材を探せるようになった。	16 (25%)
カリキュラムに沿って、学習を段取りよく導くことができるようになった。	4 (6%)
学習者（受講者）のニーズに合わせて日本語レベルを使い分けられるようになった。	4 (6%)
学習者（受講者）への助言をもって、ポジティブな学習姿勢に繋げられるようになった。	14 (22%)



「向上した」きっかけになっているのはどのようなことがらですか（63 人、複数回答可）

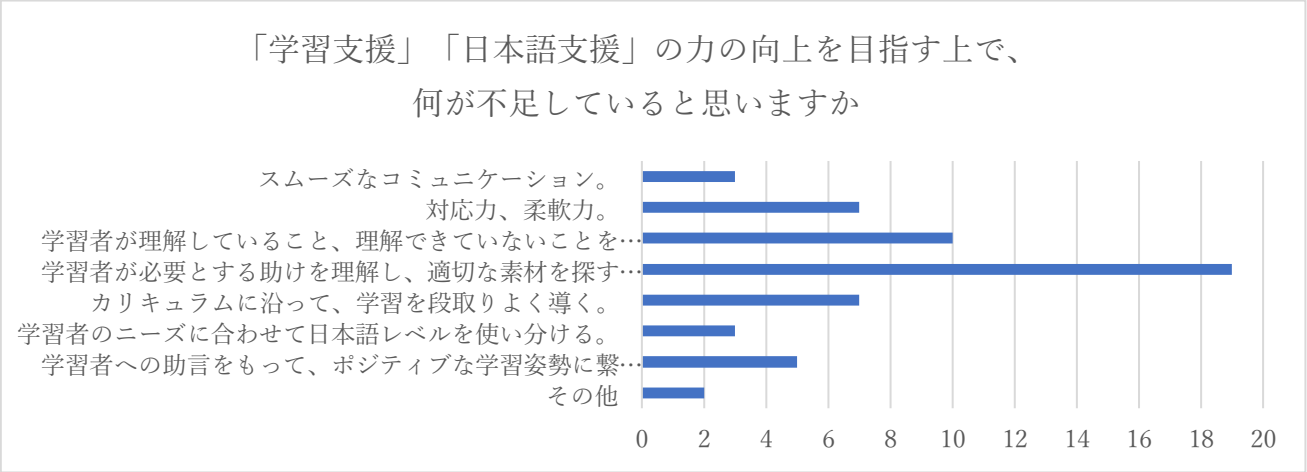
教える回数が増えて慣れてきたから。	45 (70%)
学校のカリキュラムへの知識が得られた。	6 (9%)
ZOOM の操作に慣れてきた。	8 (13%)
学習者（受講者）からの感謝の言葉や姿勢が力になった。	21 (33%)
他のボランティアの授業記録を参考にした。	14 (22%)
他のボランティアやスタッフ等との会話から参考を得た。	20 (31%)
学習支援等の勉強会や研修会等に参加し知識を得た。	13 (20%)
学習者（受講者）からアドバイスをもらった。	2 (3%)
書籍から知識を得た。	6 (9%)



どのような点から「あまり変わらない」と判断しましたか（27 人、複数回答可）

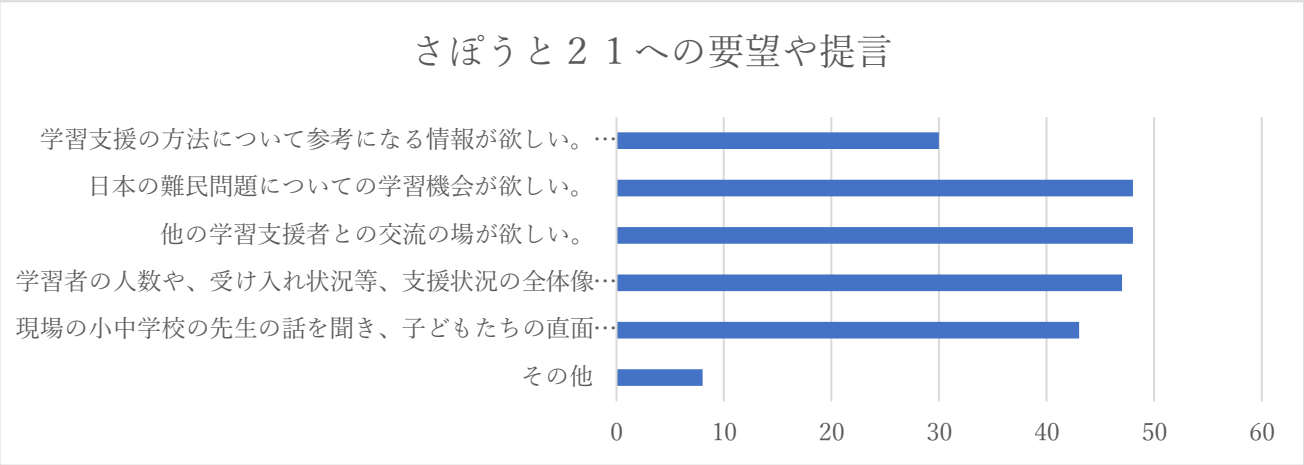
学習者（受講者）が成長しているのか、満足しているのか、良く分からない。	13 (48%)
元々学習支援の経験があるので、とくに変化なし。	6 (22%)
開始当初は向上したと感じたが、年々向上するという感覚は無い。	3 (11%)
学習対象者が流動的であるため、進歩、成果の連続的把握が難しい。	9 (33%)
学習テーマの提示が当日であるため、準備に限界あり、表層的対応にならざるを得ない。	9 (33%)
支援回数が少ないため、向上した実感が持てない。	4 (15%)
その他	3 (11%)

その他（自由回答）：
学習対象者は流動的ではないが、対象者のために多くの準備をしたり、常に良い方法を生む努力をしていないため、向上しているとは言えません。
事務局にある問題集を使って学習（支援）をしており、支援者であるわたくしの指導力等が向上しているかどうかは、自分では分かりません。
同じペースでやっている



「学習支援」「日本語支援」の力の向上を目指す上で、何が不足していると思いますか（29 人、複数回答可）

スムーズなコミュニケーション。	3 (8%)
対応力、柔軟力。	7 (18%)
学習者（受講者）が理解していること、理解できていないことを把握する。	10 (26%)
学習者（受講者）が必要とする助けを理解し、適切な素材を探すこと。	19 (49%)
カリキュラムに沿って、学習を段取りよく導く。	7 (18%)
学習者（受講者）のニーズに合わせて日本語レベルを使い分ける。	3 (8%)
学習者（受講者）への助言をもって、ポジティブな学習姿勢に繋げる。	5 (13%)
その他（自分自身が日本語教師の知識を身につけ学習支援に活かしたい、など）	2 (5%)



さぽうと２１への要望や提言。（101 人、複数回答可）

学習支援の方法について参考になる情報が欲しい。（ZOOM、ホワイトボードの活用等）	30 (30%)
日本の難民問題についての学習機会が欲しい。	48 (48%)
他の学習支援者との交流の場が欲しい。	48 (48%)
学習者（受講者）の人数や、受け入れ状況等、支援状況の全体像が知りたい。	47 (47%)
現場の小中学校の先生の話を聞き、子どもたちの直面する課題を理解したい。	43 (43%)
その他	8 (8%)

その他（自由回答）：
・日程調整を早くして欲しい。
・教室のお休みや予定変更については、もっと早く連絡がほしいです。
・子どもたちの感想、要望を知りたい。
・担当していた学習者が最終的にどの高校・大学に入学できたのか教えてほしい
・本人のバックグラウンド、特に受講の理由
・学習者の学習目的および背景を共有頂きたく存じます。学習者の参加目的が、教科学習支援目的かカウンセリング目的かで対応が異なると思われます。また、オンラインでは画面 OFF の学習者が多く、理解力、進捗率が不明です。中学生以下の場合、学習者の希望科目の学習支援よりは、半期もしくは年間で学習支援するのはいかがでしょうか。
・支援の方法に関する、枠組み・マニュアル（初めてでもスムーズに教えることができるように）が欲しい。ノウハウを体系化してほしい。
・時間をかけて繰り返し、上記（上表の選択肢）の全てについて知る機会があれば嬉しい。

さぽうと２１でのボランティア活動を継続していく上でモチベーションになっていることはありますか。（90 人、自由回答より抜粋）

受講者の学力向上や成長（39）	・受講者が少しでも勉強でわかることが増えてほしいという思い ・子供たちが勉強を頑張っている姿 ・受講者たちの成長する姿が見られること
受講者からの肯定的反応（34）	・受講者の笑顔 ・生徒がみんな良い子なこと ・受講者が心を開いて話をしてくれた時
やりがい、社会貢献（17）	・自分自身の学びとなっている事 ・困っている人の役に立ちたいという気持ち ・社会のために役立っているという意識
さぽうと２１（13）	・スタッフ、ボランティアの皆さんの意識の高さ、明るさ、前向きさ ・さぽうと２１のスタッフの方との信頼関係 ・ZOOM 研修や難民との座談会など適切に企画してくれる
難民支援（6）	・難民支援、在日外国人支援が私自身の目標です ・難民の子どもたちの力になりたいという思い
日本語教育（5）	・日本語教育を専攻しており、大学での学びと繋がり、刺激になっています ・日本語支援を 20 年続けました

さぽうと２１でのボランティア活動を継続していく上でモチベーションになっていることはありますか。（全 90 人、自由回答）

学習者が少しでも勉強でわかることが増えてほしいという思い。わかった！と言ってもらえること。	1		
学習者の進歩	1		
子どもたちが真面目に学習に取り組む姿を見ること。学校での出来事を聞くこと。	1		
子どもたちがそれまで理解できなかったことを理解してくれたと感じること。解けてうれしい、勉強がおもしろいと感じてくれているなと思えること。	1		
学習者さんからお礼の言葉を頂くと、とても嬉しいです。また、学習者さんが勉強を楽しんで下さったり、頑張って勉強されている様子を見ることも、モチベーションになっています。	1		
学習者の意欲	1		
理解度が学習者の言葉や表情で伝わった時、学習者の通う学校でのテストの点数が上がったことを知った時など、モチベーションアップにつながっています。	1		
学習者の力がついていくのが実感できること。	1		
学習支援者にドタキャンをせずに一緒に学べること	1		
学習者である子どもたちが、当たり前のように 2 時間学習に向き合う姿がモチベーションになっています。	1		
学習者たちの成長する姿が見れること	1		
学習者の方たちの熱心な姿勢	1		
子どもたちの成長を実感すること、子ども達の学習への姿勢	1		
子どもの成長(学力、人間的成長の両方)を見守ること	1		
生徒さんの意欲と成長を感じる事ができている点。	1		
学習者が積極的に勉強していること。たまに悩みなどを打ち明けてくれること。	1		
担当している子供の学習の向上。たとえ少しずつでもそれを実感できる事。	1		
学習者のやる気	1		
学習者の学力向上	1		
子どもたちが勉強を頑張ってる姿	1		
学習者が希望の進路に進むことができたとき	1		
子供の学力、学習意欲の向上	1		
学習者の成長がみえること.	1		
支援を必要としている学生たちが一生懸命なこと。	1		
学習者の成長	1		
学習者の勉強への意欲を感じるとき。学習者が、できるようになったことが増えていると感じるとき。	1		
学習者さんの成長など。	1		
様々な背景を持ち日本で暮らす学習者の皆さんの頑張る姿に励まされること。	1		
生徒がみんな良い子なこと。	2		
学習者の成長が感じられた時。学習者が心を開いて話をしてくれた時。	1	2	
子どもたちや他の支援者の方と、画面越しではありますが直接交流できることです。	2		
子どもたちから元気をもらえること。	2		
子ども達にありがとうと言われること。	2		
生徒さんたちのポジティブな気持ちや成長を垣間見ることができること ボランティアをすることで、自身が学ぶことが多いこと	1	2	3
教室に入ると、子どもたちが嬉しそうに寄ってきてくれること。 今日は勉強する気分ではないという子もいますが、楽しそうに探していてくれているので嬉しいです。	2		
子供の笑顔	2		
子供の場合は、はじめあまり話してくれなかったり反応してくれなかった子が、ちょっとした時に悩みや日々の生活について話してくれた時です。子どもたちは意外なことや、突拍子もないことを突然言うので、本当おもしろいです。 大人も子供も会って一緒に勉強していると、また会いたい、他の人達はどんな感じなのかななど気になり、そういう気持ちもモチベーションになります。	2		
学習者の笑顔	2		
学習者、支援者の方々の一生懸命な姿勢とさぽうと 21 の方々の親しみやすく相談しやすい環境	1	2	4
目的を持ち、学び続けている学習者さんの笑顔。	1	2	
自分以外の子供との交流	2		
学習者さんたちの言葉、さぽうと 21 のあたたかさ	2	4	
教室での学習者や支援者とのやりとりやアットホームな雰囲気。	2	4	

学習者とのコミュニケーション	2		
生徒たちの「分かった！」というときの嬉しさや社会のためにたてているという意識。	1	2	3
子供たちがみんな良い子であることです。	2		
支援対象の学習者が、学び、喜んでおられる様子。	1	2	
学習者や支援者との交流、学習者の成長と現実に起こる問題	2		
生徒の成長とスタッフの皆さんの熱意	1	4	
子どもが「楽しかった」とか「よくわかった」とか言ってくれること。また、私自身、「楽しかった」と感じること。	2		
学習全般についての不安やテスト対策などの相談とともに、学校生活の不安や友人関係なども信頼していろいろな話をしてくれるところです	2		
学習者や支援者の皆さんが様々な場で頑張ったり、活躍していることです。	2	4	
学習者の成長や生活面での良い方向への変化を感じること	1	2	
子どもたちが学習に楽しそうに取り組んでいること	1	2	
回を重ねることで学習者の変化を感じられたり，さまざまな背景や考え方が異なる方たちと出会えてコミュニケーションをとる楽しさのような気がします。	2		
理屈抜きで、子どもたちと触れ合うことが楽しいです。	2		
事務局の熱意	4		
コーディネーター、ボランティア、学習者、それぞれのみなさんのお人柄、味わいにふれられること。若い方々（ボランティアも学習者も）がキラキラと成長していく姿	2	4	
子どもたちはそれぞれトラウマや悩みを抱えていますが、回数を重ねるにしたがって過去の壮絶な体験や今抱えている問題を少しずつ話してくれるようになって来ました。単に学習支援をするだけでなく、子どもたちが心からホッとできる「居場所」を作りたいと思って参加した活動ですので、私としては話してくれること、それ自体がモチベーションとなっています。	2	4	
ボランティア、学習者、スタッフみんなの人柄(人間力)の素晴らしさ	2	4	
スタッフの皆さん、ボランティアの皆さんの意識の高さ、明るさ、前向きさ。	4		
スタッフの皆さんの笑顔 子どもたちの笑顔 わかった！できた！というときのリアクションの可愛らしさ。	2	4	
学習者の方の成長や満足感、ほかの支援者との情報交換、また、学習者やさぽうと 21 のスタッフの方との信頼関係	1	2	4
子どもたちの未来を応援したいという思い	3		
自分を必要としてくれている。 自分の言葉から新たなことを得てくれる。	3		
人との関わり	3		
モチベーションを向上させるため、ZOOM の研修や難民との座談会など適切に企画して呉れくので、活動に前向きに取り組める。	3	4	
社会とのかかわり	3		
自分自身の学びとなっている事。	3		
授業をする中で「日本って良い国だね」と言ってくれたり、思ってくれたりすることがモチベーションになっていると思います。	2	3	
いつも力不足を感じていますが、それでもその日一緒に勉強する中で1つでも学習者が新しい事を学んで、その事が彼らが日本で生活する中で役に立てているならいいなと思っていますし、学校とは違う環境で安心して話が出来る大人でありたいと思って活動しています。	3		
学習者の方々と繋がって、お役に立てていると思えること。	3		
今は、月 1 回でも参加を継続する事を目標としている事と、学習者が1つでもわからなかった事がわかるようになる事	1	3	
困っている人の役に立ちたいという気持ち	3		
社会貢献・国際交流の一端を担っているという自負です!	3		
難民支援、在日外国人支援が私自身の目標です。	5		
難民出身のこどもたちの教育に関心があるため	5		
難民の子どもたちの力になりたいという思い	5		
学習者のバックグラウンドに対する理解を深めたいという思い	5		
難民など、支援を必要としている外国人をサポートすることはとても遣り甲斐があります。	5		
総合的な難民問題への取り組み。	5		
日本語教授法を受講し、初めて取り組ませて頂いた。さぽうと21でのすべての経験は、とても貴重なので、定期的に活動したい。	6		
日本語教育に携わっていくための準備	6		

日本語教育を専攻しており、大学での学びと繋がり、刺激になっています。今は学習支援に関わらせてもらっていますが、日本語の支援にも今後関われるようになりたいと思っています。	6		
子どもについての勉強をしているので支援を実際にすることで学びを得ることがありモチベーションになっています。	6		
3 年前まで他で日本語支援をしており、塾で英語を去年まで教えていたので、その経験を活かしたいと思いました。また、外国から来て日本で暮らす子供たちの力になれればよいと思います。	6		
被支援者にとっての学習機会の大切さと、自分がそれを担うことの責任感、抜けたときに被支援者にご迷惑だけでなく学習機会を奪うことにもつながりかねない恐怖	3		
生徒や OB に関する情報のフィードバック	3		
日頃はオンラインでの活動ですが、9 月に対面で子どもたちと学習したことは、モチベーションを上がる良い機会となりました。	2		
一般的な生活の中では巡り会わない人と出会えること。	3		

1	学力向上・成長	39
2	良い反応	34
3	やりがい・社会貢献	17
4	さぽうと21	13
5	難民支援	6
6	日本語教育	5

考察

上記のさぽうと２１への要望や意見*では、自身の支援が受講者に十分役立っているのか心配する声が聞かれた。要望として他の学習支援者との交流の場や難民問題への学習機会を求める意見が多く、定期的な情報交換とスキルアップが支援者の自信や活動へのより深い理解につながると思われる。また、受講者の成長や笑顔が見られることが嬉しくモチベーションになっているという回答が 80％以上占める。本事業が受講者中心で、熱心な支援者に支えられる姿が見える。

（*注：「さぽうと２１への要望や提言」、「モチベーションになっていること」の質問を含む）

③文献調査・面接調査による考察

文献調査：学習支援者の活動記録を参照し、受講者の学習と学習支援者の学習支援に変化や向上が見られるか検証した。
調査実施時期：2022 年 11 月
面接調査：2020 年以降に事業に加わったコーディネーター1 人、学習支援者 1 人、および長期に授業に携わり、事業の全体像を把握しているコーディネーター 1 人を対象に、受講者および学習支援者の変化に関する聞き取りを行った。
調査実施時期：2022 年 12 月

上述のように、受講者向けに実施したアンケート調査では、当事業に対する満足度や評価は高かった。学習支援者へのアンケート調査でも、「支援能力が向上した」と回答した人は 61%と高く、手ごたえとしては「回数を重ねることで慣れる」「コミュニケーションがスムーズになった」「対応力がついた」と回答が得られた。しかしながら、「支援能力が向上した」の回答が 80%以上になるという目標値を下回った。「支援力があまり変わらない」理由として「受講者が成長しているのか良く分からない」という回答が多かった。受講者の成長は日々の積み重ねであり、継続して同じ受講者を受け持っても、具体的な学習の進歩程度が見られにくいことに起因していると思われる。「受講者と一緒に取り組めた」という実感が持てることが、支援者が定着するモチベーションになるだけでなく、学習支援の質の向上に不可欠と考え、文献調査および面接調査で明らかになったことを述べる。

本事業の実施時期はコロナ禍と重なり、質の高いオンライン型学習支援が求められた。拠点型と比較し、オンライン型では移動にかかる時間が短縮でき、より広域の受講者を支援し、多くの支援者を獲得できる可能性がある一方、支援者同士、あるいは支援者と受講者とのコミュニケーションが取りにくい、などの不便が生じた。
以前の対面教室では、学習の前後にインフォーマルなやり取りが存在し、支援者は他の支援者の勉強の進め方を観察できる、あるいは受講者と直接話す中でその変化や問題の芽を捉えるなど、様々な気づきの機会が存在していた。
オンラインでも教室の雰囲気を失わないために、オンライン教室にメインルームを設け入り口を 1 つにして、受講者は個別の教室に直接入室するのでなく、全員で挨拶してから始め、全員で終わり、みんなで言葉を交わすことを重視した。メインルームにはコーディネーターが残り、必要に応じて対応している。また支援者には他の教室を見学して能力向上に役立てることを推奨している。
しかしながら、対面で把握できるような受講者の理解していない部分や相談事や変化を、オンラインでは気づきにくいという限界があるのは事実であり、対面学習や何等かの評価機会を設けて補うことが必要であろう。

受講者の学習面の変化として支援者が捉えた事例として、自身の意思に反して学習支援室に来ることとなった受講者が、学習に対して積極的な態度に変わっていく様子が述べられた。とくに小学校から中学校に上がり成績評価が変わる時期に学習への意識も大きく変化するようだ。最初はオンライン学習でビデオをオンにせず顔を見せなかった受講者が学習に積極的になる、同じ支援者が受け持つことで距離が近くなる、計画に沿って勉強するよう努力している、試験に受かったことなどを報告してくれる、との記述もあった。このような関係作りには支援者と受講者の一対一のマッチングが欠かせず、これを調整

するコーディネーターの役割は大きい。
支援者の方も、学習支援を始めた当初は自分の教え方にこだわりがちだったのが、支援回数を重ねると徐々に当事者である受講者中心にシフトしていく傾向にある。支援者の記録には、難解な文章題を見て諦める、苦手な教科を勉強しない受講者を相手に、メリハリをつけながら、理解するまで根気よく付き合う様子が伺えた。また中には、難民や人権など社会問題に興味を持ち、自身で調べるようになった人もあり、外国ルーツ青少年への理解や支援が広がる可能性が見える。

アンケートでは学習支援能力向上に不足していることとして「受講者の学習テーマに合わせた準備ができる」「受講者が必要とする助けを理解し、適切な素材を探す」を挙げた支援者が多かった。
支援者が受講者の基本情報や以前の学習記録などを確認しやすくするため、新たに受講者情報管理システムが導入された。これにより、よりスムーズな支援が可能となると考える。
また、学習支援では事前の準備も大切だが、必要以上に準備したり、教え方の良し悪しに固執したりせず、当事者である受講者と共に考えて学習に取り組むことが重要である。これには支援のコツを支援者同士で共有することが有効で、対面またはオンラインで実施している事例もあった。コロナ禍で減少した交流機会が今後増え、学習支援の質の向上につながることを期待する。

社会福祉法人さぽうと２１

292 件の「いいね！」・フォロワー424人

健康診断でわかること

1．高血圧（こうけつあつ）　不整脈（ふせいみゃく）など

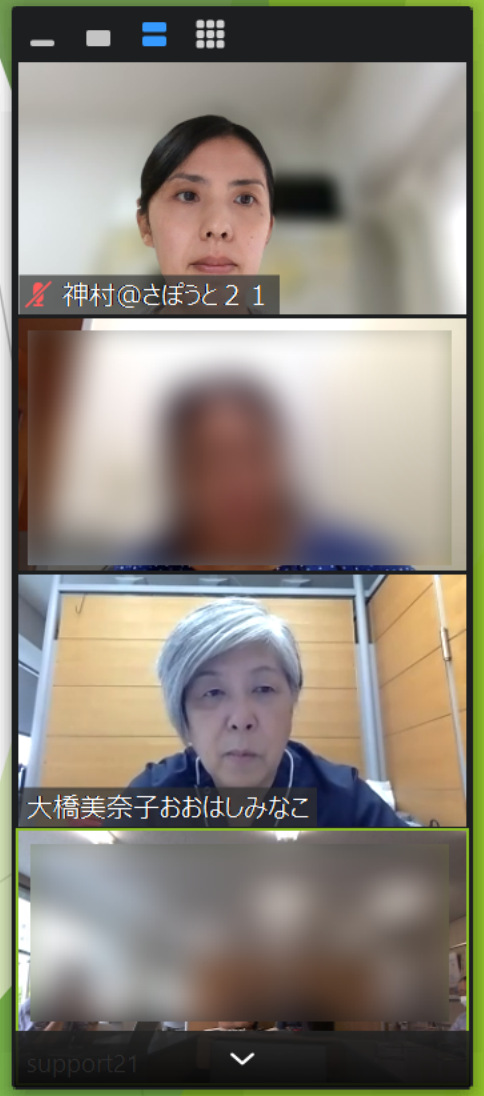
2．糖尿病（とうにょうびょう）　高コレステロール血症（こうけっしょう）など

3．肝機能障害（かんきのうしょうがい）

4．高尿酸血症（こうにょうさんけっしょう）　腎機能障害（じんきのうしょうがい）

5．肺の異常（はいのいじょう）

6．貧血（ひんけつ）



ＦＰの会　青山（あおやま）　の画面を表示しています
ビュー オプション
表示

1-8.キャッシュフロー表の計算①

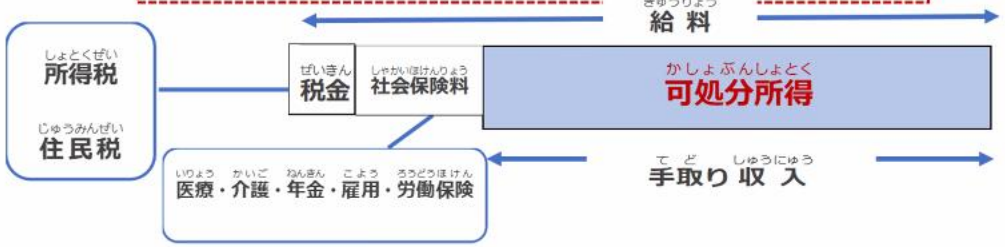
① 収入＝手取り収入（可処分所得）

可処分所得＝年収－（税金＋社会保険料）

○年後の収入＝現在の収入×（１＋変動率）年数

＜変動率＞

給料（収入）や物価（支出）、預金金利（貯蓄残高）がどのように動くのかを想定して数値を入れる。（変わらないと考える場合は０）



15

ミュート解除　ビデオの停止　セキュリティ　参加者 6　投票　チャット　画面の共有　レコーディング　リアクション　アプリ　ホワイトボード　詳細　終了